



取扱説明書

ラインスキャンカメラ

型式：SUI7450T2



日本エレクトロセンサデバイス株式会社



はじめに

この度は、弊社の製品をご購入いただき、まことにありがとうございます。
今後とも弊社の製品を、末永くご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただくために、製品をお使いになる前には、必ず本書をお読みください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

- ◆ 本製品を取り扱う上で重要な項目については次のマークで警告の表示を行っております。

 警告	誤った取扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性のあることを示します。
 注意	誤った取扱いをすると人が傷害を負う可能性、または物的損害の発生するおそれのあることを示します。

安全上のご注意



- ◆ 分解や改造はしないでください。
- ◆ 濡れた手で、接続ケーブルのピンや金属部分にさわらないでください。
- ◆ 雨や水滴のかかる場所、有毒なガスや液体のある場所では使用しないでください。
- ◆ 長期間、ご使用にならない場合は、安全のため接続ケーブルをカメラから外してください。
- ◆ 高所での設置や点検等の作業をする場合は、機器や部品の落下防止策を十分に行ってから実施してください。
- ◆ 煙が出たり、異臭や異音がする場合はすぐに供給電源を切って、ケーブルを製品から外してください。
- ◆ 本機の異常により、重大な事故につながるシステムに使用しないでください。

使用上のご注意



注意

- ◆ 必ず使用温度範囲内でご使用ください。
- ◆ 必ず指定の電源電圧でご使用ください。
- ◆ 製品を落下させたり、強い衝撃や振動を与えないでください。
- ◆ 内部温度上昇をさける為、周囲に十分なスペースをとって設置してください。
- ◆ ほこりや粉塵の多い場所でのご使用の際は、必ず粉塵防護策をしてください。
- ◆ 通電状態でケーブルを抜き差しすると製品が損傷する事がありますので、ケーブルを抜き差しする場合は、必ず供給電源を切ってください。
- ◆ ウィンドウガラスの表面にゴミや汚れが付着すると、画像に黒キズとして表示しますので、ゴミはエアブロー等で吹き飛ばし、汚れはエチルアルコールをつけた綿棒等でガラス面にキズをつけないように拭き取ってください。
- ◆ 昼光色蛍光灯など赤外成分を含まない光源の使用を推奨しますが、ハロゲンランプなどの光源を使用する場合は赤外線カットフィルタを併用ください。
- ◆ 可視光領域外の長波長の光を使用する場合、特性に影響がありますので、注意下さい。
- ◆ 使用する光源の分光特性によって、有効画素範囲内において感度むらが生じる場合があります。この場合、異なる分光特性の照明に変える事で感度むらを少なく出来る場合があります。
- ◆ CCDに過度の光量を与えると、過飽和状態となり特性に影響がありますので、注意下さい。(本製品は、過飽和防止機能はありません。)
- ◆ より安定した画像を取り込む場合は、電源投入後 10~20 分間エージングを行った後に使用してください。
- ◆ モータなどのノイズ源と電源を共有することは避けてください。
- ◆ SG (シグナル・グランド) と FG (フレーム・グランド) はカメラ内で接続されています。GND 電位差によるループが形成されないようシステム設計を行ってください。
- ◆ 内蔵メモリ (フラッシュメモリ) 内容を書き換え中にカメラ供給電源を切らないでください。
- ◆ 露光モードを出荷時設定より変更する場合は画像取り込みボード側より制御入力 (CC1) を供給した状態にて行ってください。

製品保証について

無償保証期間

- ◆ 商品の無償保証期間は「お買上げ後2年」となります。
- ◆ ただし、使用環境・使用条件・使用頻度や回数などにより、商品の寿命に影響を及ぼす場合は、この保証期間が適用されない場合があります。

保証範囲

- ◆ 製品修理は弊社への SEND・バック（製品返却）となります。現地修理は別途料金が発生します。
- ◆ 無償保証期間中に弊社側の責任により故障を生じた場合は、その商品の故障部分の交換または修理を弊社にて無償で行わせていただきます。返送料は発送元のご負担とします。ただし、次に該当する場合はこの保証の対象範囲から除外させていただきます。

保証対象範囲からの除外

- ◆ 弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。火災、地震、第三者による行為、その他の事故、使用者の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害。
- ◆ 本装置の使用又は使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失、事業の中断等）。
- ◆ 本書で説明された以外の使い方により生じた損害。
- ◆ 接続機器との組合せによる誤動作などから生じた損害。
- ◆ お客様ご自身が修理・改造を行った場合に生じた損害。

故障診断

- ◆ 一次故障診断は、原則としてお客様との電話または、メールなどの連絡により故障状況の把握にご協力をお願い致します。
- ◆ 但し、お客様の要請により弊社または弊社協力会社がこの業務を有償にて代行致します。

機会損失などの補償責任の除外

- ◆ 無償保証期間内外を問わず、弊社商品の故障に起因するお客様あるいはお客様の顧客殿での機会損失ならびに弊社商品以外への損傷、その他業務に対する補償は弊社の保証外とさせていただきます。

商品の使用上の注意

- ◆ 商品は一般工業向けの汎用製品として設計・製造を行っております。生命・財産に多大な影響が予測される用途に関しましては、商品を設置または使用される側で、二重、三重の安全装置を設置してください。

修理サービス内容

- ◆ ご購入品および納入品の価格には、技術者派遣などの修理サービス費用は含まれておりません。ご要望により、別途ご相談させていただきます。

修理サービスの適用範囲

- ◆ 以上の内容は、日本国内での取引および使用を前提とするものです。日本以外での取引および使用に関しては、弊社に別途ご相談してください。

もくじ

1 製品の概要	9
1.1 特徴	9
1.2 本カメラの応用事例	9
1.3 イメージセンサ	10
1.4 性能・仕様	10
2 カメラの設置と光学系の取付け	13
2.1 カメラの設置	13
2.2 カメラの固定	13
2.3 カメラの外形寸法	13
2.4 光学系の取付け	14
3 ハードウェア	15
3.1 カメラの接続	15
3.2 入出力	16
3.3 コネクタ・ピンアサイン・ケーブル	17
3.4 電源の供給	20
4 カメラの制御	21
4.1 カメラ制御の流れ	21
4.1.1 コマンドの概要	21
4.1.2 コマンドの書式 (PC 送信)	21
4.1.3 受信メッセージ (PC 受信)	21
4.1.4 コマンドの一覧	22
4.1.5 設定初期値 (工場出荷時) の一覧	24
4.2 コマンドの詳細	25
4.2.1 露光モード	25
4.2.2 フリーラン露光モードスキャン	25
4.2.3 奇数ゲイン (1~3700 画素) の設定	25
4.2.4 偶数ゲイン (1~3700 画素) の設定	26
4.2.5 奇数ゲイン (3701~7400 画素) の設定	26
4.2.6 偶数ゲイン (3701~7400 画素) の設定	26
4.2.7 奇数オフセット (1~3700 画素) の設定	26
4.2.8 偶数オフセット (1~3700 画素) の設定	27
4.2.9 奇数オフセット (3701~7400 画素) の設定	27
4.2.10 偶数オフセット (3701~7400 画素) の設定	27
4.2.11 ビデオ出力切替設定	28
4.2.12 画素補正選択	28

4.2.13	画素補正ターゲットレベル	28
4.2.14	ユーザ画素補正データ取得 1	28
4.2.15	ユーザ画素補正データ取得 2	29
4.2.16	ユーザ画素補正データ保存	29
4.2.17	データレベル変換選択	29
4.2.18	データレベル変換最小値の設定	29
4.2.19	データレベル変換最大値の設定	30
4.2.20	スキャン方向設定	30
4.2.21	テストパターン表示	30
4.2.22	メモリ保存	30
4.2.23	メモリ読込	31
4.2.24	メモリ初期化（カメラ設定の初期化）	31
4.3	内部回路構成ブロック	32
4.4	スタートアップ（起動時の動作）	32
4.5	設定の保存と読込み	33
4.6	シリアル通信設定	33
4.7	ビデオ出力フォーマット	34
4.8	露光モードとタイミング	36
4.8.1	フリーラン露光モード	36
4.8.2	外部トリガ露光モード	37
4.8.3	疑似露光時間制御（トリガエッジ）モード	38
4.8.4	疑似露光時間制御（トリガレベル）モード	39
4.9	オフセットの設定	40
4.10	ゲインの設定	41
4.11	データレベル変換	42
4.12	画素補正機能	43
4.12.1	コマンド設定	44
4.12.2	操作方法	44
4.13	テストパターン	45
5	カメラ設定の確認基準	46
5.1	通電前	46
5.2	通電後	47
5.3	動作開始時	49
6	センサの取扱	50
6.1	静電気とセンサ	50
6.2	ほこり・油・傷対策	50
6.3	センサの清掃	50
7	トラブルシューティング	51

7.1 撮像できない	51
7.2 画像にノイズがはいる	53
7.3 カメラが熱くなる	55
8 NCCtrl (カメラコントロール) について	56
8.1 概要	56
8.2 動作環境	56
8.3 インストール	57
8.4 アンインストール	57
8.5 操作	57
8.5.1 凡例	57
8.5.2 起動	58
8.5.3 カメラ設定ファイルの読み込み	59
8.5.4 インターフェースの選択・タイムアウト設定	59
8.5.5 接続	62
8.5.6 切断および終了	62
8.5.7 通信内容の確認	63
8.5.8 設定のテキスト保存	63
8.5.9 テキストから一括設定	64
8.6 制御	64
8.6.1 オフセット	65
8.6.2 ビデオ出力形態	65
8.6.3 カメラ内メモリ	65
8.6.4 画素補正	66
8.7 アップグレード	66
8.7.1 NCCtrl をバージョンアップする場合	66
8.7.2 カメラ設定ファイルを追加または置き換える場合	66
8.7.3 接続するインターフェースを追加または置き換える場合	66
8.8 通信プログラムについて	66
8.9 その他	67
9 その他	67
9.1 お願い	67
9.2 お問い合わせ先	67
9.3 保証とアフターサービス	68
9.3.1 保証書 (別添付)	68
9.3.2 修理を依頼されるとき	68

1 製品の概要

1.1 特徴

- 読出し 50MHz
- 高解像度 (7400 画素)
- 外部インターフェースに、Camera Link 規格を採用し、フレームグラバボードとの接続が容易に行えます。
- FPGA を搭載し、全画素ビット補正・シェーディング補正・画像データレベル変換などのインテリジェント機能を実現しています。
- フレームグラバボードからのコマンド送信により感度・オフセットの変更などが可能です。

1.2 本カメラの応用事例

- 透過基板検査・基板検査用
- 高速移動体の外観検査用
- FPD 関連の外観検査用
- ガラス・シート状対象物の外観検査用
- 基板外観検査用
- ITS 関連応用
- 屋外監視カメラ用

プリント回路基板の外観検査装置の一例を下図に示します。

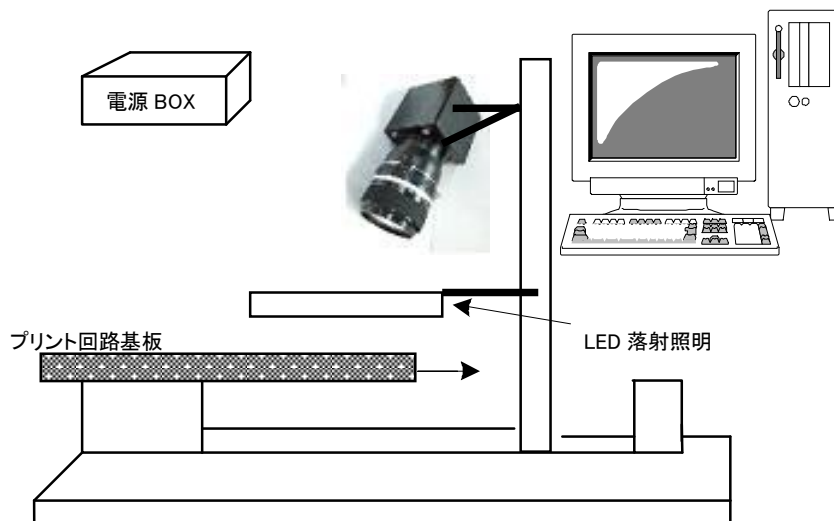


図 1-2-1 プリント回路基板の外観検査装置

対象物仕様

プリント回路基板

性能

1. プリント回路基板サイズ 150mm×150mm
2. 分解能 20 μ m
3. 検査タクト 30 秒以下

装置仕様

1. カメラ モノクロラインスキャンカメラ
2. コントローラー パソコンシステム 専用ソフト
3. 装置寸法 長さ 930mm、奥行き 500mm、高さ 500mm

適用分野

プリント回路基板のパターン検査

1.3 イメージセンサ

本製品は最大データレート 50MHz のモノクロ CCD センサを採用し、高感度かつ高品位な画像を取得できます。

画素サイズは 4.7 μ m×4.7 μ m で、ライン前半、後半（各 3700 画素）を 2tap にて同時出力することにより、高速データ転送を実現しました。（ビデオデータレート 100MHz）

1.4 性能・仕様

カメラの性能を表 1-4-1 に示します。特に断りがない場合は、カメラを最短スキャンレートで動作させた場合のデータを示しています。

表 1-4-1 性能仕様表

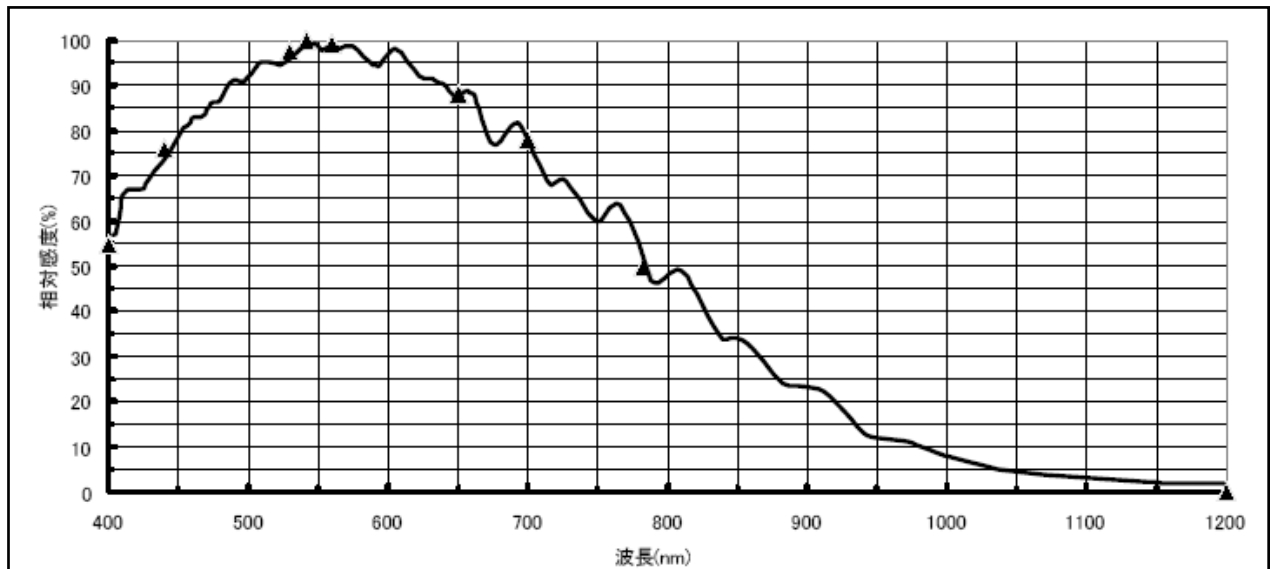
項目	仕様
画素数	7400
画素サイズ H×V (μ m)	4.7×4.7
素子長 (mm)	34.78
分光感度 (nm)	400～800※ピーク 541
データレート (MHz)	50 [固定]
最短スキャン周期 (μ S)	80 [12.5kHz]
飽和露光量 (lx・s) ※typ	0.074[ゲイン×1、Ta=25°C、昼光色蛍光灯]
アナログ 5V 換算感度※typ (V/ [lx・s])	67[ゲイン×1、Ta=25°C、昼光色蛍光灯]
PGA ゲイン調整 (倍)	1～6 [VAL=0～350]
オフセット調整 (LSB)	0～15

ビデオ出力	Camera Link ベースコンフィグレーション 8bit 2tap 出力 10bit 2tap 出力 12bit 2tap 出力 Port A : 1~3700 画素 Port B : 7400~3701 画素	
制御入力	CC1 : 外部トリガ信号 CC2 : 未使用 CC3 : 未使用 CC4 : 未使用	
シリアル通信制御	SerTC、SerTFG	
マスタクロック (MHz)	50	
コネクタ	データ・制御	3M : MDR26 [Camera Link]
	電源	ヒロセ : HR10G-7R-6PB (6Pin)
最大ケーブル長 (m)	10 ※CameraLink 規格ケーブル使用	
標準レンズマウント	ニコンマウント	
使用温度範囲 (°C)	0~50 ※ただし結露なきこと	
電源電圧 (V)	DC12~15 [±5%]	
消費電流 (mA) ※typ	440	
外形寸法 W×H×D (mm)	64×70×90.3	
質量 (g) ※本体のみ	約 380	
付加機能	<ol style="list-style-type: none"> 1. 画素補正 2. プログラマブル露光時間設定 (フリーラン露光モード、トリガエッジモード時) 3. テストパターン出力 4. データレベル変換 5. リバースモード (スキャン方向反転) 	

分光感度特性

CCD 分光感度特性は以下の通りです。

($T_a=25^{\circ}\text{C}$)



2.4 光学系の取付け

本製品には、ニコンFマウントが付いています。

お客様の望まれる画像を撮るのに必要な光源の光量・波長などは、用途によって異なります。これらを決める要因として、撮影される対象物の物性・速さ・分光特性、露光時間、光源の特性、取り込みシステムの仕様などが挙げられます。

適切な画像を得るために重要なのは露光量（露光時間×光量）です。お客様がどの要素を重視するか十分ご検討の上、露光時間と光量を決めてください。

各種光源の特徴を記しますので、光源を選定する場合の参考にしてください。

- LED 他の光源と比較すると安価で、均一な分布を持ち、長寿命です。しかしながら光量が低いため、高感度なカメラが必要となります。
- ハロゲン光源 赤外光は強いですが、青の光量は少ない特性を持ちます。
- ファイバー光源 ハロゲン光源と同じく、青が弱い特性を持ちます。
- メタルハライド光源 非常に明るくできますが寿命が短いのが欠点です。一般に光量が小さいほど光源の寿命は長くなります。

本 CCD イメージセンサは、赤外光に高い感度を有しています。赤外光による画像の劣化が問題となる場合は、昼光色蛍光灯など赤外成分を含まない光源の使用を推奨しますが、ハロゲンランプなどの光源を使用する場合は赤外カットフィルタを併用してください。

3 ハードウェア

3.1 カメラの接続

カメラを使用するためには、以下の手順が必要です。

(1) Camera Link 対応ケーブルでカメラとフレームグラバボード（画像取込ボード）をつないでください。

- ◆ カメラとフレームグラバボードの接続は、Camera Link 対応ケーブルを使用します。
- ◆ 方向性を持った Camera Link 対応ケーブルを使用する場合は、
「カメラ側」という表示のあるコネクタをカメラに接続してください。

(2) 電源に接続してください。

カメラとカメラ用電源の接続は、電源ケーブルを使用します。電源ケーブルのプラグ側をカメラに接続し、未処理側をカメラ用電源に接続してください。これ以外に、パソコン、フレームグラバボード、撮像用レンズ、光源、エンコーダ等が必要となります。目的に適したものを選択し、適切に設定してください。

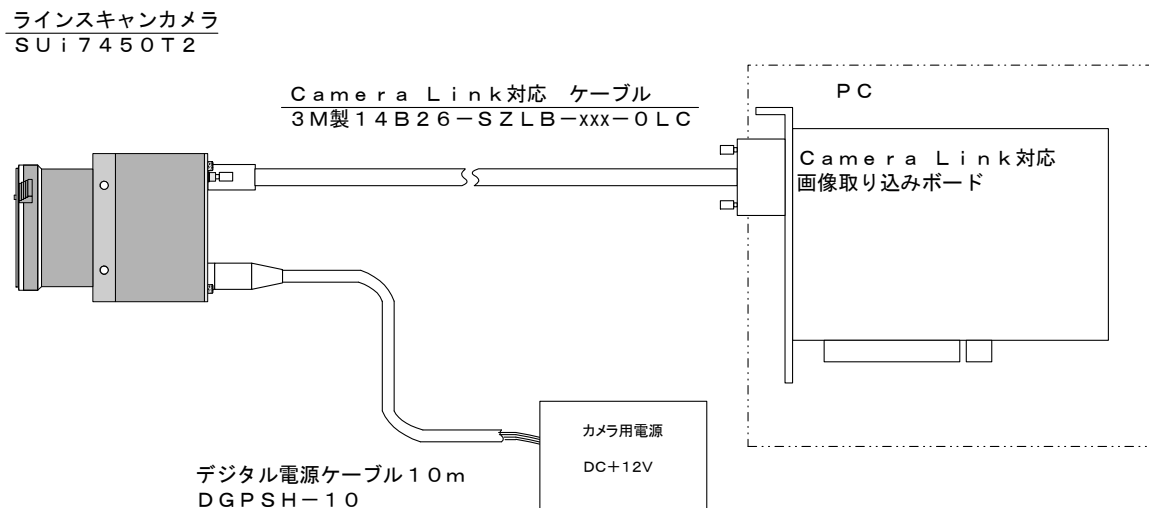


図 3-1-1 カメラとフレームグラバボードと電源の接続図

- ◆ Camera Link の Medium or Full Configuration 対応ボードにはコネクタが 2 つありますので、フレームグラバボードの仕様を確認のうえ接続してください。

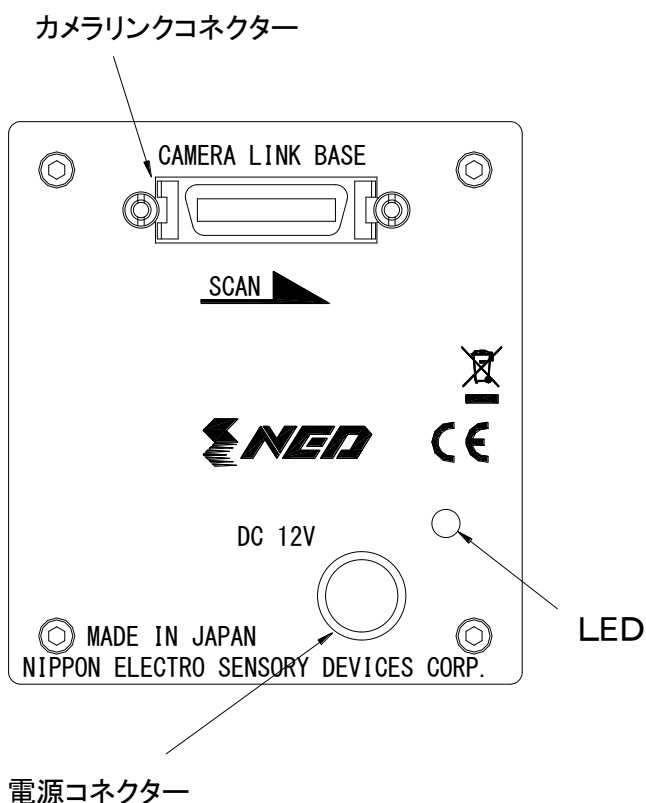
＜Camera Link ケーブルを選択する時の注意＞Camera Link ケーブルの規格では、最大ケーブル長は 10m となっていますが、Camera Link でデータを伝送できる最大ケーブル長はケーブルの性能及びクロックスピードで変わりますので、実際のアプリケーション（カメラ・ケーブル・フレームグラバボード）に依存します。10m の伝送距離は、遅いクロックスピードでは可能ですが、速いクロックスピードでは、実現可能な最大伝送距離は 10m より短くなります。代表的なケーブル（3M 社：14B26-SZLB-xxx-0LC）とフレームグラバボード（Matrox 社：Solios）の例を Camera Link ケーブルの規格 2007.Version1.2 から算出した数値を参考として示します。上記の事より、お客様ご自身が構想されているアプリケーションに合わせて、適切な Camera Link ケーブルを選定してください。また事前に接続確認を行われる事を推奨いたします。

表 3-1-1 最大ケーブル長の算出値

Solios の型式	クロックスピード (MHz)	最大ケーブル長 (m)
SOL 6M CL E* (20~66MHz)	40	9.8
	66	8.0
SOL 6M FC E* (20~85MHz)	75	7.6
	85	5.8

3.2 入出力

コネクタの配置は以下の通りです。



3.3 コネクタ・ピンアサイン・ケーブル

Camera Link インターフェース規格の Base Configuration を採用しております。

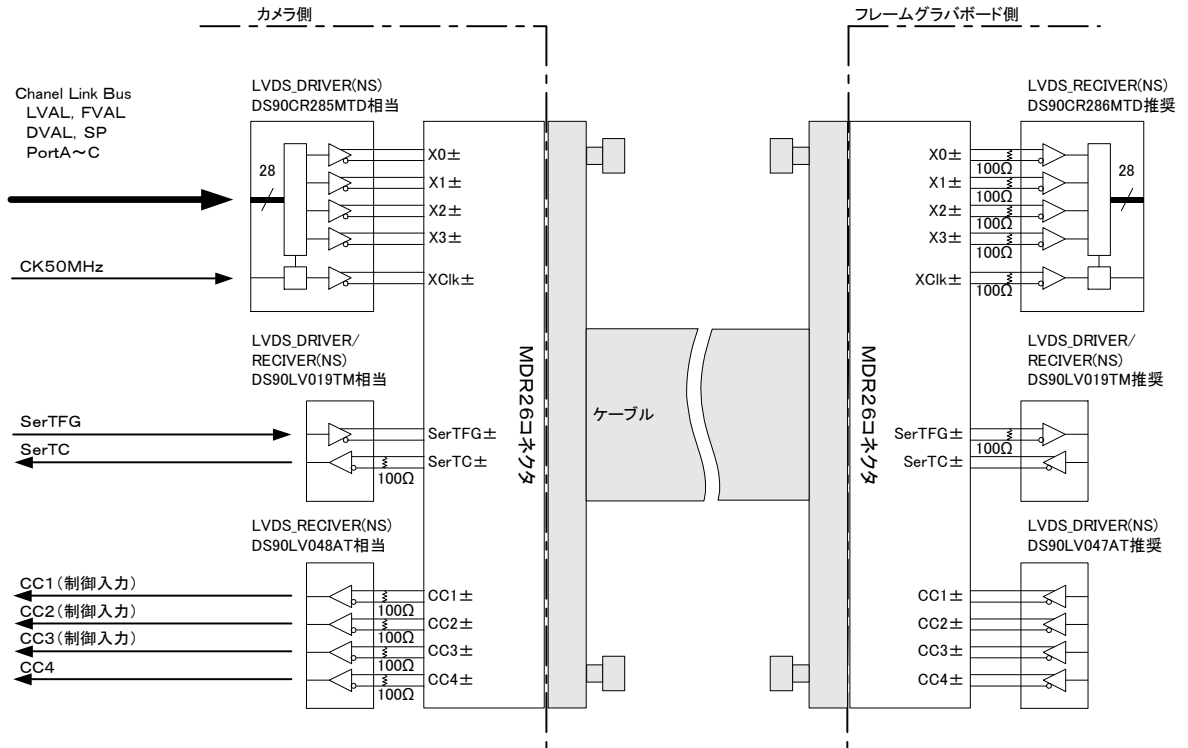


図 3-3-1 Camera Link のインターフェースの構成図

8 bit 出力・10 bit 出力の場合のカメラリンクポートアサインを以下に示します。

表 3-3-1 出力データビットアサイン

No	NAME	No	NAME	I/O
1	Inner Shield	14	Inner Shield	
2	X0-	15	X0+	Out
3	X1-	16	X1+	Out
4	X2-	17	X2+	Out
5	Xclk-	18	Xclk+	Out
6	X3-	19	X3+	Out
7	SerTC+	20	SerTC-	In
8	SerTFG-	21	SerTFG+	Out
9	CC1-	22	CC1+	In
10	CC2+	23	CC2-	In
11	CC3-	24	CC3+	In
12	CC4+	25	CC4-	In
13	Inner Shield	26	Inner Shield	

- 各信号の説明

Inner Shield : シールド線 (GND)
 X0+, X0-...X3+, X3- : データ出力 (Channel Link)
 Xclk+, Xclk- : 上記データ出力同期用クロック出力 (Channel Link)
 SerTC+, SerTC- : シリアルデータ入力 (LVDS)
 SerTFG+, SerTFG- : シリアルデータ出力 (LVDS)
 CC1+, CC1- : 外部同期スタート信号入力 (LVDS)
 CC2+, CC2- : 未使用 (LVDS)
 CC3+, CC3- : 未使用 (LVDS)
 CC4+, CC4- : 未使用 (LVDS)

- CameraLink 対応適合ケーブル 0

3M:14B26-SZLB-xxx-0LC 相当品

- ◆ LVDS、Channel Link のレシーバ (RECEIVER) 側は必ず 100Ω 終端を行ってください。
- ◆ LVDS のドライバ (DRIVER) 側は未使用でもオープンにせず、必ず H か L に論理を固定してください。

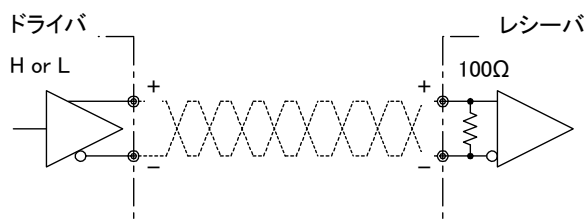


図 3-3-2 LVDS の基本回路

本製品は Camera Link の制御信号、データ信号及びシリアル通信用に 26 ピン MDR コネクタを使用し、電源用に 4 ピンのヒロセのコネクタを使用しています。

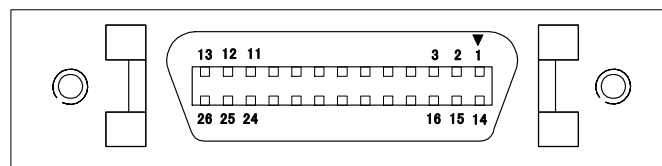


図 3-3-3 Camera Link コネクタ

- ハーフピッチ (ミニチュアデルタリボン) 形状
- ロッキングスクリュー (インチねじ #4-40) ロック方式

- ◆ 通電中にコネクタが外れないようにケーブルのロックングスクリューで必ず固定して下さい。
- ◆ 通電中に決してコネクタの抜き差しをしないでください。

電源コネクタのピンアサインは以下の通りです。

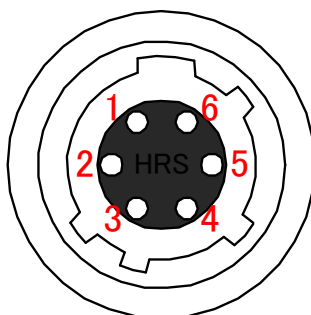


図 3-3-4 カメラ側電源コネクタ（ヒロセ：HR10G-7R-6PB）

- 丸型 プッシュプルロック方式

表 3-3-2 電源コネクタのピンアサイン

No	NAME
1	+12V
2	+12V
3	+12V
4	GND
5	GND
6	GND

3.4 電源の供給

本製品には単一直流電圧（DC+12～+15V）の供給が必要です。

- ◆ 電源の容量は突入電流等も考慮に入れ少し余裕のある物を選定する事をおすすめ致します。（15W 以上推奨）
- ◆ 通電中にコネクタが外れないようにケーブルのプラグをロックするまでしっかりと差し込んでください。

適合ケーブル（適合プラグ）

DGPSH-10（ヒロセ：HR10A-7P-6S 付）

電源電圧

+12V～+15V：DC+12V～+15V（±5%）

消費電流（定格）

+12V：440mA

+12V 電源を供給すると LED が点灯します。

- ◆ 電源を供給しても点灯しない場合は、すぐに電源をお切りのうえ、配線および供給電源の電圧、容量等に問題がないかご確認ください。

4 カメラの制御

カメラの機能はシリアル通信を通じたコマンドで制御できます。そのためにはコマンドを直接シリアル通信で送り出す方法と、NCCtrl（カメラ制御ソフト）を使用する方法があります。

カメラの設定は一度行えば、シリアル通信を用いなくともカメラは適切に動作します。

4.1 カメラ制御の流れ

4.1.1 コマンドの概要

コマンドは ASCII コードの簡単な組合せで構成されています。

- PC からカメラへ制御コマンドを送信することにより通信が開始します。
- カメラは、受信制御コマンドを解析し、受信制御コマンドに従った制御を実行します。
- カメラから PC へ受信制御コマンド解析結果を返信して、通信が終了します。
- ◆ 1つの通信が終了してから次の通信を開始してください。（1つのコマンドで1つの通信となります。）

4.1.2 コマンドの書式（PC 送信）

書式 1 CMD CR

書式 2 CMD VAL CR

CMD : 制御文字（1バイト） 半角英小文字 1文字 数字は使用しない

CR : 区切り文字（0x0D）

VAL : 設定値（10進、1バイト×最大7桁）

<例>

l CR

g70 CR

4.1.3 受信メッセージ（PC 受信）

書式 1. >R CR >[SB] CR EOT

書式 2. (CMD が l の場合) >OK CR >[MEM] CR >l CR EOT

> : 結果開始文字（0x3E）

R : カメラ受信コマンド解析結果

[SB] : カメラ受信コマンドセンドバック

[MEM] : メモリデータ読み出し値

CR : 区切り文字（0x0D）

EOT : 送信コマンド全文終了文字（0x04）

<例>

>OK CR >g0 CR EOT

表 4-1-3-1 カメラ受信コマンド解析結果一覧表

解析結果返信コマンド	解析結果内容
OK	コマンド正常受信
CMD ERR !	コマンドエラー
CMD OVR ERR !	コマンド文字列オーバーフローエラー
VAL ERR !	範囲外設定値エラー
MEM ERR !	カメラメモリ範囲外設定値エラー

4.1.4 コマンドの一覧

このカメラで使用するコマンドは表 4-1-4-1 の通りです。

表 4-1-4-1 コマンド一覧表

制御項目	C	[VAL]	制御内容
露光モード	t	0	フリーラン（プログラマブル設定固定時間）
		1	外部トリガ（エッジ周期露光）
		2	外部トリガ（プログラマブル設定固定時間）
		3	外部トリガ（レベル周期露光）
フリーラン露光モードスキャン	i	4000～ 1048575	4000～1048575CK (80μs～20.9715ms)
奇数ゲイン (1～3700画素)	g	0～350	1～6倍
偶数ゲイン (1～3700画素)	G	0～350	1～6倍
奇数ゲイン (3701～7400画素)	b	0～350	1～6倍
偶数ゲイン (3701～7400画素)	B	0～350	1～6倍
奇数オフセット (1～3700画素)	o	0～15	8bit: 0～15LSB (1LSB/STEP) 10bit: 0～60LSB (4LSB/STEP) 12bit: 0～240LSB
偶数オフセット (1～3700画素)	O	0～15	8bit: 0～15LSB (1LSB/STEP) 10bit: 0～60LSB (4LSB/STEP) 12bit: 0～240LSB
奇数オフセット (3701～7400画素)	p	0～15	8bit: 0～15LSB (1LSB/STEP) 10bit: 0～60LSB (4LSB/STEP) 12bit: 0～240LSB

偶数オフセット (3701~7400 画素)	P	0~15	8bit: 0~15LSB (1LSB/STEP) 10bit: 0~60LSB (4LSB/STEP) 12bit: 0~240LSB
ビデオ出力切替	v	0	8bit 2tap
		1	10bit 2tap
		6	12bit 2tap
画素補正選択	C	0	画素補正 無効 (CCD生出力)
		1	工場画素補正「白 (入光)」データ 有効
		2	ユーザ画素補正データ 有効
画素補正ターゲットレベル	M	0~255	画素補正実行時の補正ターゲットレベル値 (DN)
ユーザ画素補正データ取得1	W	/	ユーザ画素補正「白 (入光)」データの取り込み実行
ユーザ画素補正データ取得2	K	/	ユーザ画素補正「黒 (遮光)」データの取り込み実行
ユーザ画素補正データ保存	L	/	取得したユーザ画素補正データを内蔵メモリへ保存
データレベル変換選択	c	0	データレベル変換 無効
		1	データレベル変換 有効
データレベル変換下限設定値	s	0~128	データレベル変換下限設定値 0~128DN
データレベル変換上限設定値	S	129~255	データレベル変換上限設定値 129~255DN
スキャン方向反転	R	0	無効: 正方向
		1	有効: 逆方向
テストパターン出力選択	T	0	テストパターン出力 無効 (画像データ出力)
		1	テストパターン出力 有効
メモリ保存	w	/	上記設定を内蔵メモリへ保存
メモリ読込	l	/	内蔵メモリより設定値を読み込み反映
メモリ初期化	z	/	内蔵メモリの設定値を初期化し反映

4.1.5 設定初期値（工場出荷時）の一覧

設定初期値（工場出荷時）は、表 4-1-5-1 の通りです。

表 4-1-5-1 工場出荷時メモリ設定値（初期値）

制御項目	C	[VAL]	制御内容
露光モード	t	0	フリーラン（プログラマブル設定固定時間）
フリーラン露光モードスキャン時間	i	4000	4000CK（80μs）最短スキャン時間
奇数ゲイン （1～3700画素）	g	0	1倍
偶数ゲイン （1～3700画素）	G	0	1倍
奇数ゲイン （1～3700画素）	b	0	1倍
偶数ゲイン （1～3700画素）	B	0	1倍
奇数オフセット （1～3700画素）	o	1	1DN
偶数オフセット （1～3700画素）	O	1	1DN
奇数オフセット （3701～7400画素）	p	1	1DN
偶数オフセット （3701～7400画素）	P	1	1DN
ビデオ出力切替	v	0	8bit 2tap
画素補正選択	C	1	工場画素補正「白（入光）」データ 有効
画素補正ターゲットレベル	M	128	画素補正実行時の補正ターゲットレベル値 128DN
データレベル変換 選択	c	0	データレベル変換 無効
データレベル変換 下限設定値	s	0	データレベル変換下限設定値 0DN
データレベル変換 上限設定値	S	255	データレベル変換上限設定値 255DN
スキャン方向反転	R	0	無効：正方向
テストパターン 出力選択	T	0	テストパターン出力 無効（画像データ出力）

4.2 コマンドの詳細

4.2.1 露光モード

露光モードを設定します。

- ・書式 2 CMD VAL CR
- ・CMD t
- ・VAL 0, 1

(コマンド通信例)

```
t0CR (フリーランモード選択)
>OK
>t0
```

4.2.2 フリーラン露光モードスキャン

露光時間を設定します。

- ・書式 2 CMD VAL CR
- ・CMD i
- ・VAL 4000~1048575

(コマンド通信例)

```
i 4000 CR (露光時間を 80  $\mu$  s に設定)
>OK
>i4000
```

4.2.3 奇数ゲイン (1~3700 画素) の設定

カメラ奇数ゲインを設定します。0~350 で設定できます。

- ・書式 2 CMD VAL CR
- ・CMD g
- ・VAL 0 ~ 350

(コマンド通信例)

```
g100CR
>OK
>g100
```

4.2.4 偶数ゲイン（1～3700 画素）の設定

カメラの偶数ゲインを設定します。0～350 で設定できます。

- ・書式 2 CMD VAL CR
- ・CMD G
- ・VAL 0 ～ 350

（コマンド通信例）

```
G100CR
>OK
>G100
```

4.2.5 奇数ゲイン（3701～7400 画素）の設定

カメラ奇数ゲインを設定します。0～350 で設定できます。

- ・書式 2 CMD VAL CR
- ・CMD b
- ・VAL 0 ～ 350

（コマンド通信例）

```
b100CR
>OK
>b100
```

4.2.6 偶数ゲイン（3701～7400 画素）の設定

カメラの偶数ゲインを設定します。0～350 で設定できます。

- ・書式 2 CMD VAL CR
- ・CMD B
- ・VAL 0 ～ 350

（コマンド通信例）

```
B100CR
>OK
>B100
```

4.2.7 奇数オフセット（1～3700 画素）の設定

カメラの奇数オフセットを設定します。0～15 で設定できます。

- ・書式 2 CMD VAL CR
- ・CMD o
- ・VAL 0 ～ 15

（コマンド通信例）

```
o5CR
>OK
>o5
```

4.2.8 偶数オフセット（1～3700画素）の設定

カメラの奇数オフセットを設定します。0～15で設定できます。

- ・書式2 CMD VAL CR
- ・CMD 0
- ・VAL 0 ～ 15

（コマンド通信例）

```
05CR
>OK
>05
```

4.2.9 奇数オフセット（3701～7400画素）の設定

カメラの奇数オフセットを設定します。0～15で設定できます。

- ・書式2 CMD VAL CR
- ・CMD p
- ・VAL 0 ～ 15

（コマンド通信例）

```
p5CR
>OK
>p5
```

4.2.10 偶数オフセット（3701～7400画素）の設定

カメラの奇数オフセットを設定します。0～15で設定できます。

- ・書式2 CMD VAL CR
- ・CMD P
- ・VAL 0 ～ 15

（コマンド通信例）

```
P5CR
>OK
>P5
```

4.2.11 ビデオ出力切替設定

カメラの出力信号のデータフォーマットを設定します。

- ・書式 2 CMD VAL GR
- ・CMD v
- ・VAL 0, 1, 6

(コマンド通信例)

```
vOCR (8bit 出力)
>OK
>v0
```

4.2.12 画素補正選択

画素補正を切り替えます。

- ・書式 2 CMD VAL GR
- ・CMD C
- ・VAL 0, 1, 2

(コマンド通信例)

```
C1CR (工場画素補正「白(入光)」データ有効)
>OK
>C1
```

4.2.13 画素補正ターゲットレベル

画素補正実行時の補正ターゲットレベル値 (DN) を設定します。

- ・書式 2 CMD VAL GR
- ・CMD M
- ・VAL 0 ~ 255

(コマンド通信例)

```
M192GR
>OK
>M192
```

4.2.14 ユーザ画素補正データ取得 1

任意の画素補正「白(入光)」データを取得します。

- ・書式 1 CMD GR
- ・CMD W

(コマンド通信例)

```
WCR
>OK
>W
```

4.2.15 ユーザ画素補正データ取得 2

任意の画素補正「黒（遮光）」データを取得します。

・書式 1 CMD GR

・CMD K

（コマンド通信例）

KCR

>OK

>K

4.2.16 ユーザ画素補正データ保存

取得したユーザ画素補正データを内蔵メモリに保存します。

・書式 1 CMD GR

・CMD L

（コマンド通信例）

LCR

>OK

>L

4.2.17 データレベル変換選択

データレベル変換を選択します。

・書式 2 CMD VAL GR

・CMD c

・VAL 0, 1

（コマンド通信例）

c1CR （データレベル変換有効）

>OK

>c1

4.2.18 データレベル変換最小値の設定

データをレベル変換する際の最小値を設定します。

・書式 2 CMD VAL GR

・CMD s

・VAL 0 ~ 128

（コマンド通信例）

s64CR

>OK

>s64

4.2.19 データレベル変換最大値の設定

データをレベル変換する際の最大値を設定します。

- ・書式 2 CMD VAL GR
- ・CMD S
- ・VAL 129 ~ 255

(コマンド通信例)

```
S192CR
>OK
>S192
```

4.2.20 スキャン方向設定

カメラのスキャン方向を切り替えます。

- ・書式 2 CMD VAL GR
- ・CMD R
- ・VAL 0, 1 (0:正方向, 1:逆方向)

(コマンド通信例) 逆方向出力

```
R1CR
>OK
>R1
```

4.2.21 テストパターン表示

テストパターンと画像データの表示を切り替えます。

- ・書式 2 CMD VAL GR
- ・CMD T
- ・VAL 0, 1 (0:画像データ, 1:テストパターン)

(コマンド通信例) テストパターン表示

```
T1CR
>OK
>T1
```

4.2.22 メモリ保存

現在のカメラ設定値を内蔵メモリに保存します。

- ・書式 1 CMD GR
- ・CMD w

(コマンド通信例)

```
wCR
>OK
>w
```

4.2.23 メモリ読込

内蔵メモリより設定値を読込反映します。

・書式1 CMD CR

・CMD I

(コマンド通信例)

I CR

>OK

>I

4.2.24 メモリ初期化 (カメラ設定の初期化)

内蔵メモリの内容を工場出荷時設定に初期化し、反映します。

・書式1 CMD CR

・CMD z

(コマンド通信例)

z CR

>OK

>z

4.3 内部回路構成ブロック

本製品の内部回路構成ブロックは以下の通りです。

CCD イメージセンサからの出力を A/D 変換後、デジタル処理部でデータ処理を行い、Camera Link の Medium Configuration (8bit 出力の場合) に変換して出力しています。

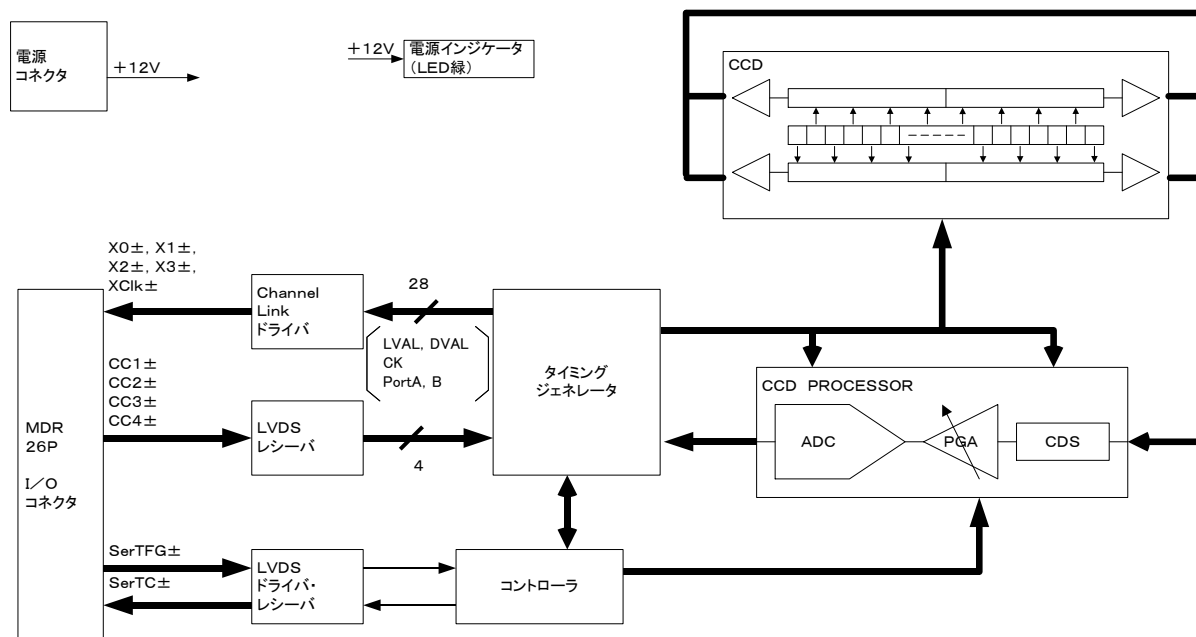


図 4-3-1 SUI7450T2 の内部回路構成ブロック

4.4 スタートアップ（起動時の動作）

カメラの電源を投入すると、カメラが画像を出力するまでにいくつかのスタートアップ処理を行います。これには約 4 秒必要です。

スタートアップは次の手順でセットされます。

- ① カメラのハードウェアを初期化します。
- ② 最後にセーブされた設定（ユーザ設定がセーブされているときはユーザ設定、そうでない場合は工場設定）をフラッシュメモリから読み出します。
- ③ フラッシュメモリから読み出した設定値でカメラを設定します。

このシーケンスが終了しますと、カメラは画像取得及び出力の準備が整います。

4.5 設定の保存と読み込み

カメラの設定は内蔵メモリ（フラッシュメモリ）に保存され、カメラ起動時及びメモリロード時（Iコマンド送信時）にフラッシュメモリから読出されます。

- 内蔵メモリの書き換え回数は使用条件によります。電源投入時に内蔵メモリの内容を確認し、もし故障等で設定範囲外の内容になっている場合、工場出荷時のメモリ設定値に自動的に書き換えます。

- ◆ 内蔵メモリ内容を書き換え中にカメラ供給電源を切るとメモリに保存しているデータの内容が消失します。

メモリ内容を書き換える処理に数秒かかりますので、カメラよりメッセージが返信されるまでにカメラ供給電源を切らないでください。

メモリ内容を書き換えるコマンドは下記になります。

- ◆ メモリ初期化 (z)
- ◆ メモリ保存 (w)
- ◆ 画素補正データ保存・反映 (L)

- ◆ カメラ設定を変更する場合は画像取り込みボード側より制御入力 (CC1) を供給した状態にて行って下さい。※供給しない、又は使用範囲外の制御入力を供給した場合、画像取り込みができなかったり、カメラ設定変更ができなくなります。4.8.2項をご参照ください。

4.6 シリアル通信設定

シリアル通信は Camera Link インターフェースを通じて行われます。

シリアル通信の設定値を下表に示します。

表 4-6-1 シリアル通信設定

設定項目	設定値
通信速度（ボーレート）	9600bps
データ長	8bit
パリティビット	なし
ストップビット	1bit
フロー制御	なし

4.7 ビデオ出力フォーマット

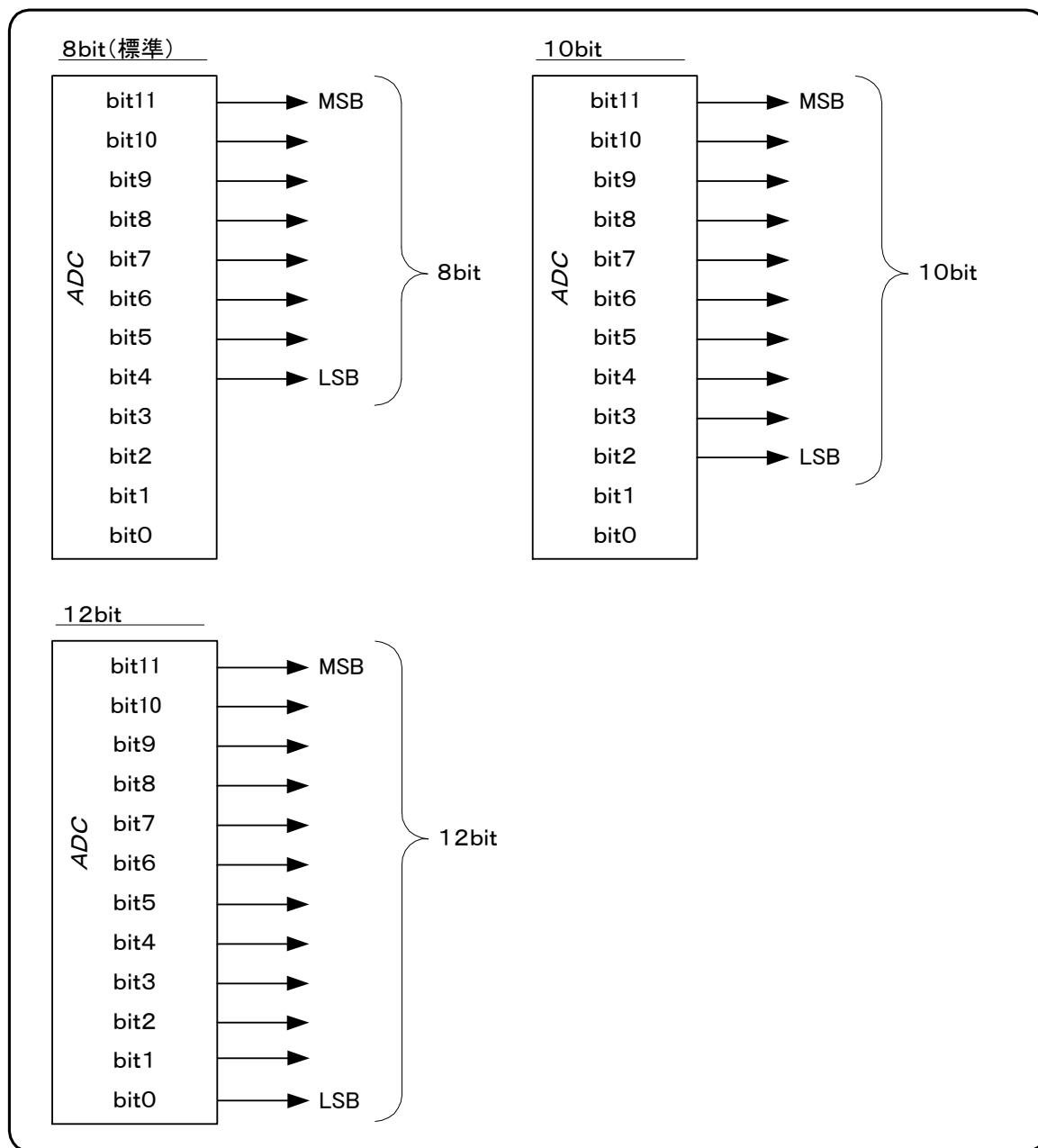


図 4-7-1 デジタルデータのアサイン

本製品の A/D コンバータからの出力は 12bit ですが、10bit 出力時には上位 10bit を、8bit 出力時には上位 8bit をビデオデータとして出力しております。

本製品のビデオ出力位相関係は以下の通りです。

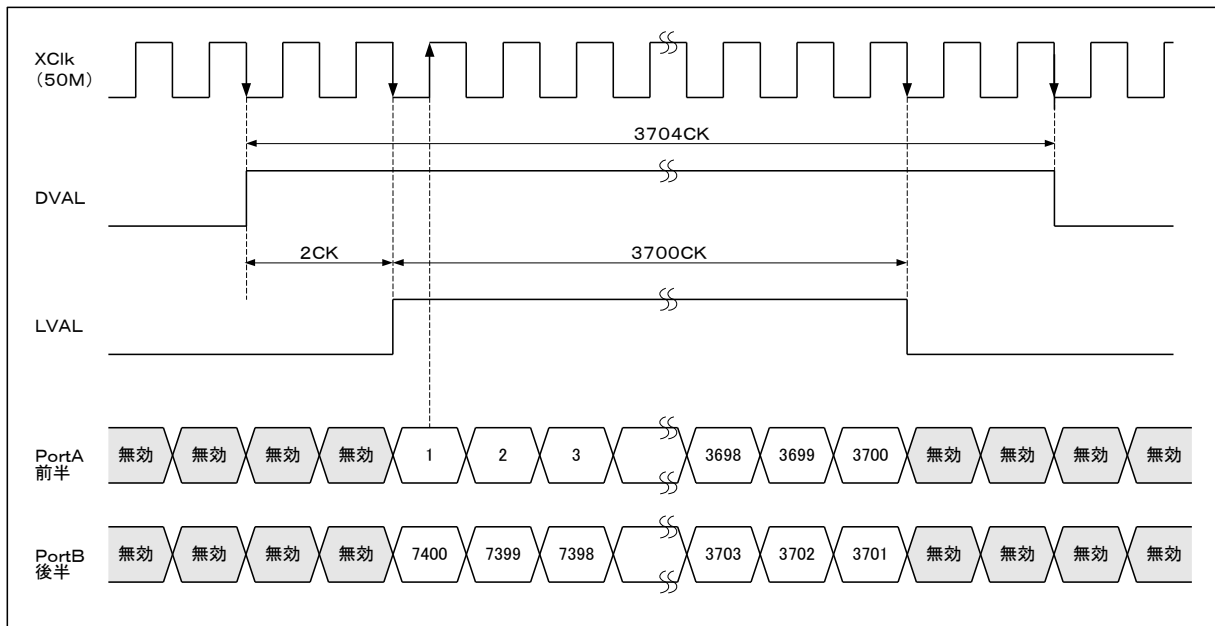


図 4-7-2 ビデオ出力位相関係

- ◆ FVAL = 「0」 (Lowレベル) 固定
- ◆ ビデオ出力の前半画素 (PortA) は 1 → 3700 画素の順方向に出力されますが、後半画素 (PortB) は 7400 → 3701 画素の逆方向に出力されますので、画像取り込みボードにて取り込んだ画像を合成される際には、並び替えが必要になります。

4.8 露光モードとタイミング

本製品は2種類の露光モードを選択することができます。

4.8.1 フリーラン露光モード

フリーラン露光モードは、露光時間をコマンド送信により設定し、その露光時間で決められるスキャン周期で繰り返し露光・読み出しを行うモードです。設定可能な露光時間範囲および、露光と読み出しのタイミング関係は以下の通りです。

表 4-8-1-1 フリーラン露光モードの時間設定

露光時間	プログラマブル露光設定期間=スキャン周期	80 μ s ~ 20.9715 m s
読み出し	読み出し期間	80 μ s

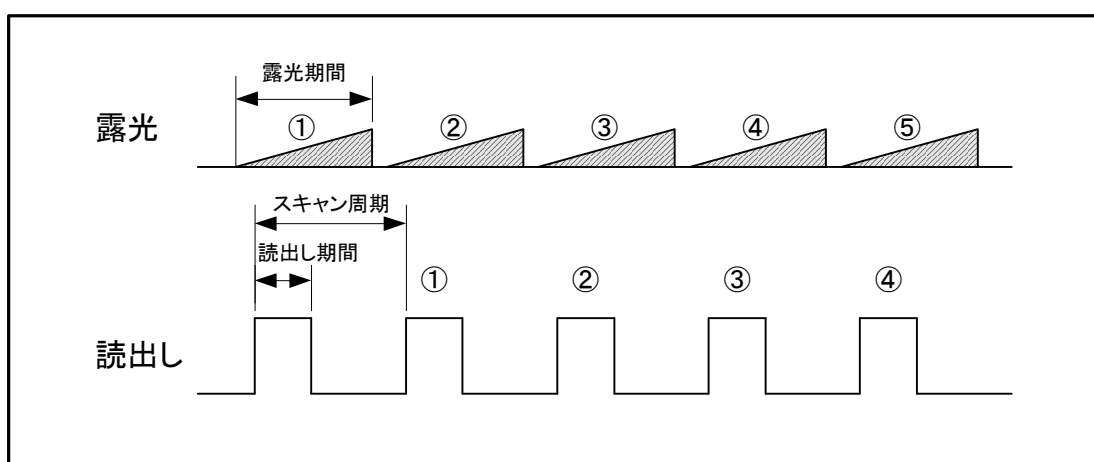


図 4-8-1-1 フリーラン露光モード

- ◆ スキャン周期（プログラマブル設定）は、80 μ s ~ 20.9715 m s（4000 ~ 1048575 CK）の範囲で設定可能です。

スキャン周期は次式より算出してください。

$$\text{スキャン周期} (\mu\text{s}) = \text{設定 CK} \times 0.02$$

4.8.2 外部トリガ露光モード

外部トリガ露光モードは、外部からのトリガ信号(CC1)の周期でライン周期を設定し、外部からのトリガ信号の立ち上がりで露光開始を設定するモードです。設定可能な露光時間範囲及び、外部トリガ信号と露光・読出しのタイミング関係は以下の通りです。

表 4-8-2-1 外部トリガ露光モードの時間設定

a	トリガパルス High 期間	$\geq 40 \text{ ns}$
露光時間 (a + b)	トリガパルス期間	$\geq 80 \mu \text{ s}$
読出し	読出し期間	$80 \mu \text{ s}$

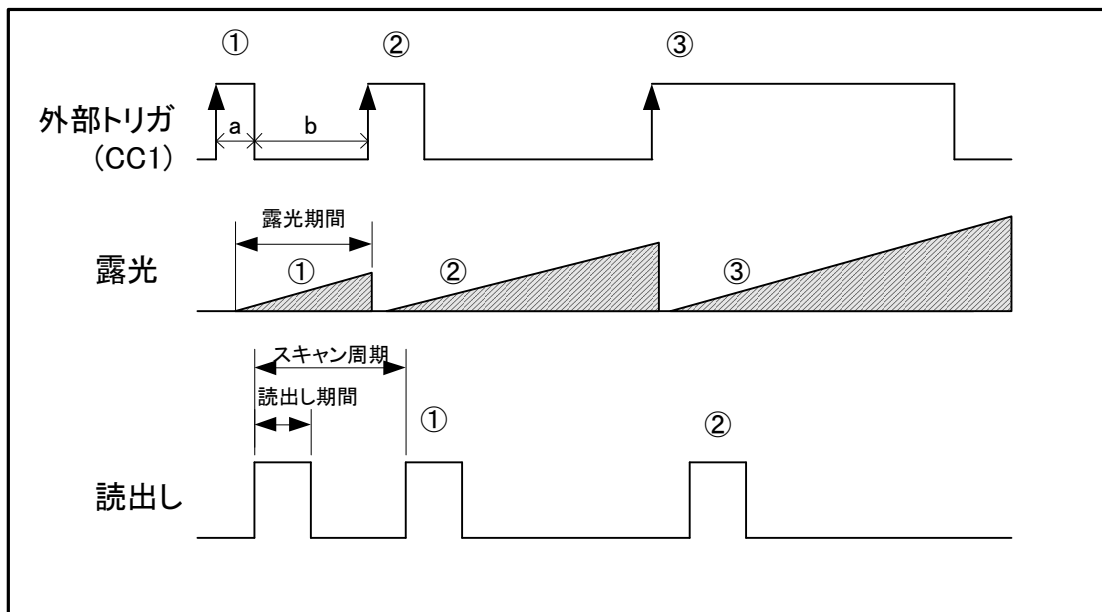


図 4-8-2-1 外部トリガ露光モード

タイミング制約は以下参照願います。

a : 外部パルス H 期間 40ns (2CK) 以上

b : 外部パルス L 期間 20ns (1CK) 以上

a+b : スキャン周期は $80 \mu \text{ s} \sim 20.9715 \text{ ms}$ (4000~1048575CK)

4.8.3 疑似露光時間制御（トリガエッジ）モード

疑似露光時間制御（エッジ）モードは、露光時間はコマンド送信により設定し、スキャンレートは外部トリガ信号 (CC1) の周期で設定し、露光開始は外部トリガ信号の立ち上がりより開始するモードです。設定可能な露光時間範囲及び、外部トリガ信号と露光・読出しのタイミング関係は以下の通りです。

表 4-8-3-1 疑似露光時間制御（エッジ）モードの時間設定

a	トリガパルス High 期間	$\geq 40 \text{ n s}$
a + b	トリガパルス期間	$\geq \text{プログラマブル露光設定期間} + 80 \mu \text{ s}$
露光時間	プログラマブル露光設定期間	$80 \mu \text{ s} \sim 20.9715 \text{ m s}$
読出し	読出し期間	$80 \mu \text{ s}$

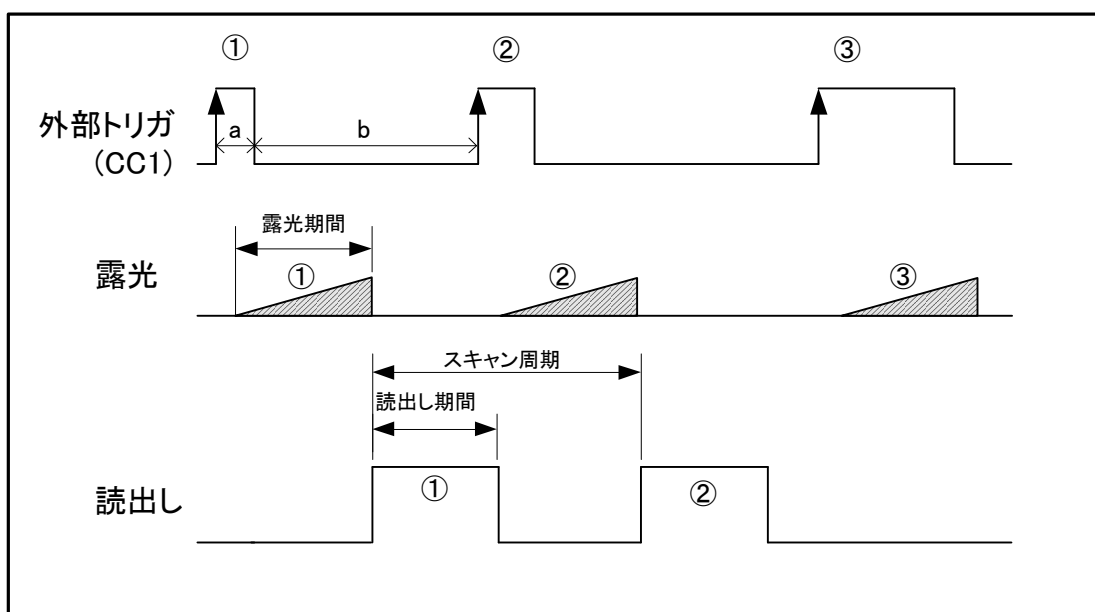


図 4-8-3-1 疑似露光時間制御（エッジ）モード

タイミング制約は以下参照願います。

a : 外部パルス H 期間 40ns (2CK) 以上

b : 外部パルス L 期間 20ns (1CK) 以上

a+b : スキャン周期は $80 \mu \text{ s} + 80 \mu \text{ s} \sim 20.9715 \text{ ms}$ (4000~1048575CK)

4.8.4 疑似露光時間制御（トリガレベル）モード

疑似露光時間制御（レベル）モードは、露光時間を外部トリガ信号(CC1)のHレベルで設定し、スキャン周期は外部トリガ信号の周期で設定し、露光開始は外部トリガ信号の立ち上がりより開始するモードです。設定可能な露光時間範囲及び、外部トリガ信号と露光・読出しのタイミング関係は以下の通りです。

表 4-8-4-1 疑似露光時間制御（レベル）モードの時間設定

a	トリガパルス High 期間	$\geq 80 \mu s$
b	トリガパルス Low 期間	$\geq 80 \mu s$
読出し	読出し期間	$160 \mu s$

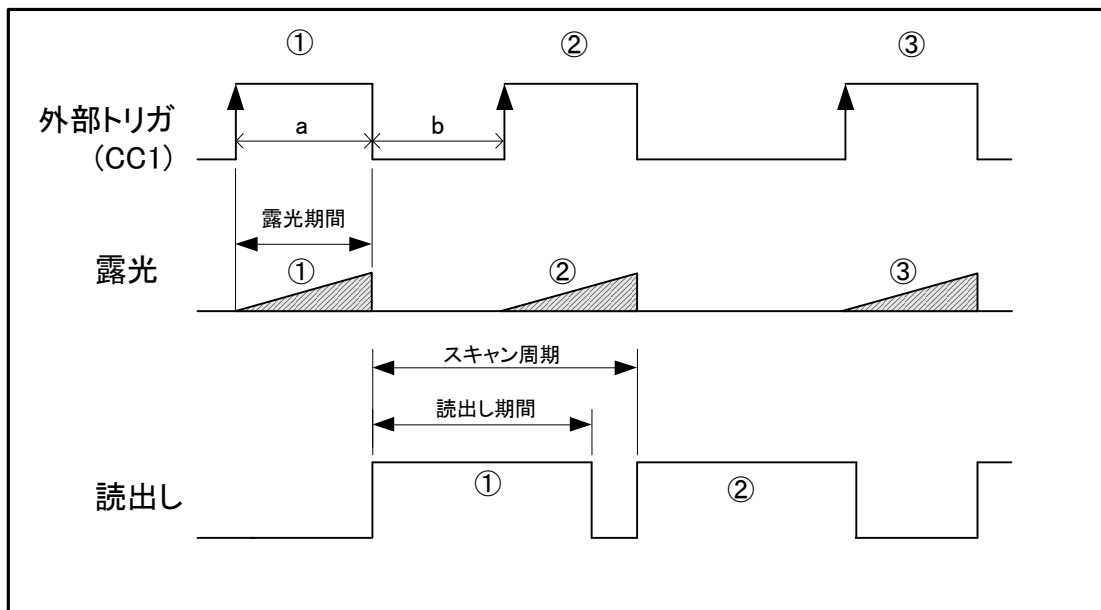


図 4-8-4-1 疑似露光時間制御（レベル）モード

タイミング制約は以下参照願います。

- a : 外部パルス H 期間 80μ 以上
- b : 外部パルス L 期間 $80 \mu s$ 以上
- a+b : スキャン周期は $160 \mu s \sim 20.9715ms$

4.9 オフセットの設定

下図の横軸は入射光量 ($\text{lx}\cdot\text{s}$)、縦軸は出力データを表します。
縦軸の F_s は飽和時出力、 D_d は暗時出力 (いずれもデジタル値) を示します。
横軸の S_e は飽和露光量といい、出力が飽和する時の露光量を表します。

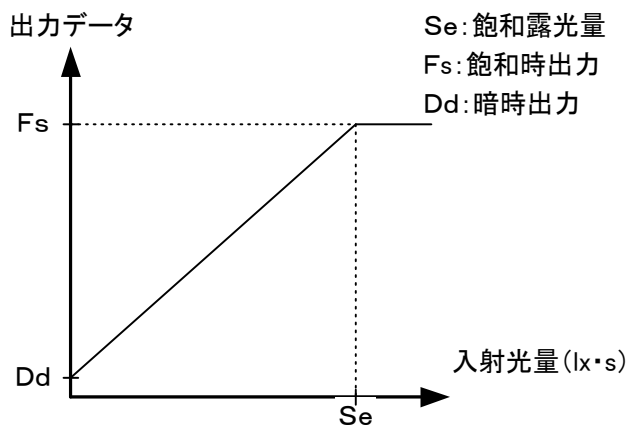


図 4-9-1 飽和露光量と暗時出力

オフセットを設定することで、上図の Y 切片をお客様の希望する値に設定することができます。下図で DF はデジタルオフセット値を示します。この場合、直線の傾きは一定です。

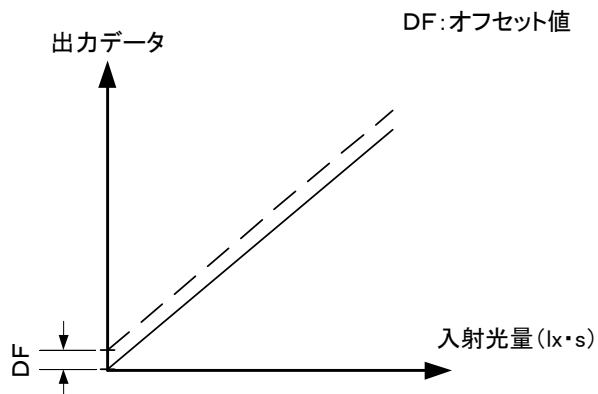


図 4-9-2 オフセット調整

- ◆ オフセットはご使用になるシステムにあわせて調整してください。

4.10 ゲインの設定

本製品ではゲイン（×1～6）を調整することが可能です。いずれの場合も、下図の直線の傾きを変えることとなります。ゲインを上げてやると直線の傾きが急になり、少ない露光量で出力が飽和するようになります。つまり、少ない光で多くの出力が得られますので、感度が上がったこととなります。

ゲインはコマンド一覧表に記載のコマンドで変更られますが、ユーザ画素補正機能をご使用になれば出力レベルが目標値になる様に自動でゲイン調整でき便利です。

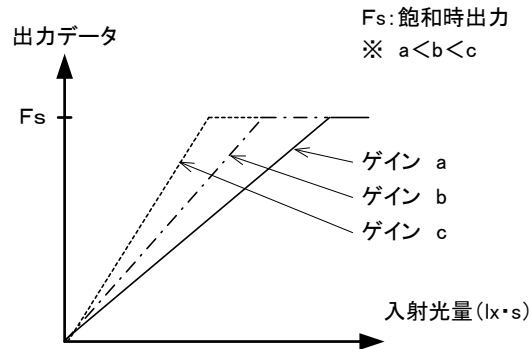


図 4-10-1 ゲインの設定

- ◆ ゲインとノイズ量は比例関係にあります。
- ◆ ゲインはご使用になるシステムにあわせて調整してください。

ゲインは次式より算出して下さい。

$$G \text{ (倍率)} \quad \doteq \quad \text{ゲインコード} \div 70 + 1$$

<例>

コード	G (倍率)	感度 (V/(lx·s))
0	1	67
70	2	134
210	4	268
350	6	402

4.11 データレベル変換

デジタル演算処理することにより、コントラスト強調することが可能です。

データレベル変換演算式

$$V_{out} = (V_{in} - Min) \times 256 \div (Max - Min)$$

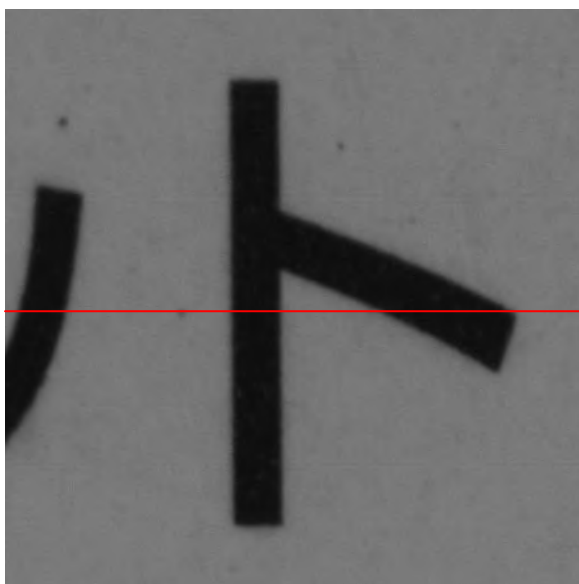
V_{out} : データレベル変換後出力データ

V_{in} : データレベル変換前出力データ

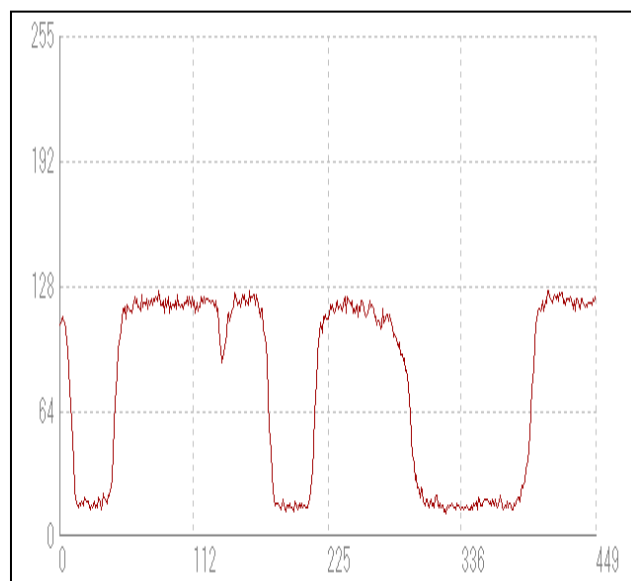
Min : データレベル変換下限値

Max : データレベル変換上限値

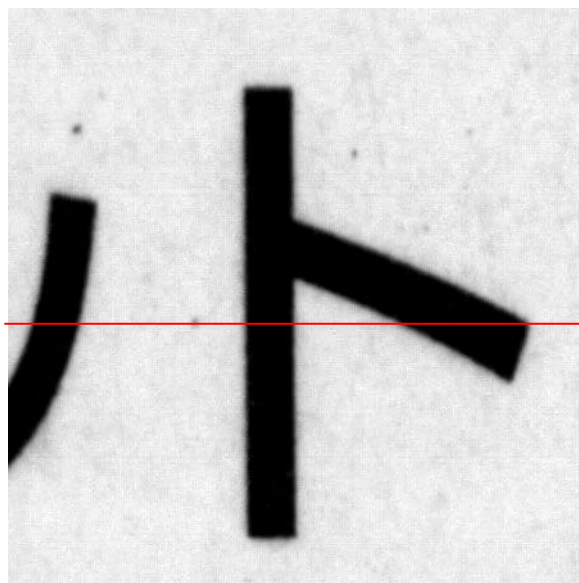
<例> データレベル変換設定値 : 下限 23DN, 上限 129DN



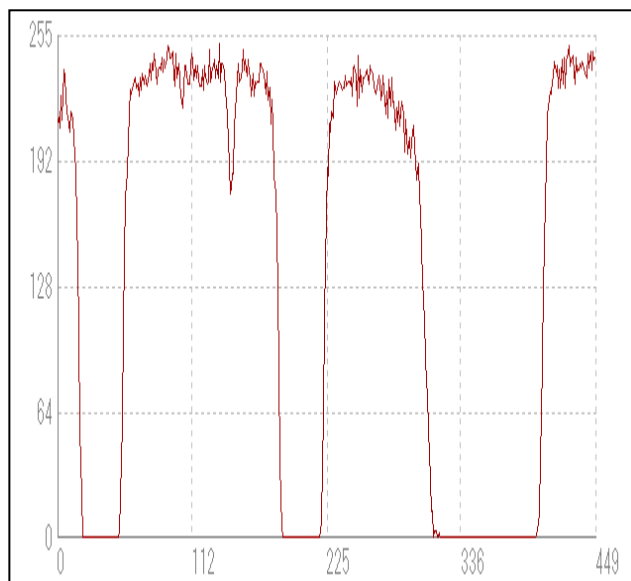
データレベル変換前画像



左記画像赤線部 プロファイル



データレベル変換後画像



左記画像赤線部 プロファイル

◆ データレベル変換によりノイズは増加します。

4.12 画素補正機能

イメージセンサはその方式（CCD、CMOS など）によらず、画素毎の感度ばらつきを必ず持っています。また、レンズを使用する場合は、レンズ自身のシェーディングにより画素間の明るさに差が生じます。本製品は画素間の感度を補正した状態で出荷するようにしております。こうすることで高品位な画像を得ることができます。

また、レンズのシェーディングやお客様の照明ムラを補正することができるように、ユーザ白補正機能も内蔵しております。

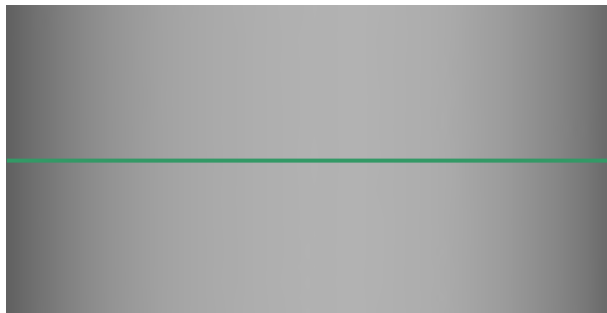
Cal_bl : 完全ダーク時の各画素の出力データ（デジタル）

Cal_wh : 均一光照射時の各画素の出力データ（デジタル）

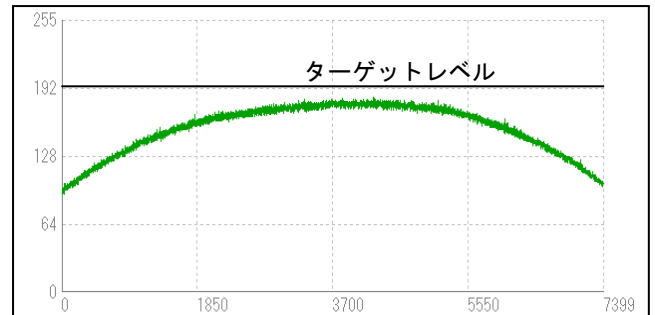
Vin : 入力データ（デジタル） Vout : 出力データ（デジタル）

の時、 $Vout = (Vin - Cal_bl) \times Cal_wh$ で出力データを補正する。

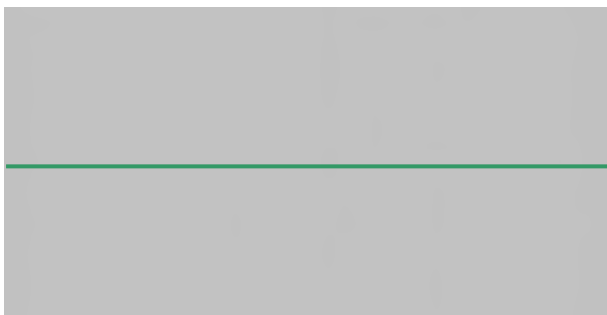
<例> 画素補正ターゲットレベル : 192DN



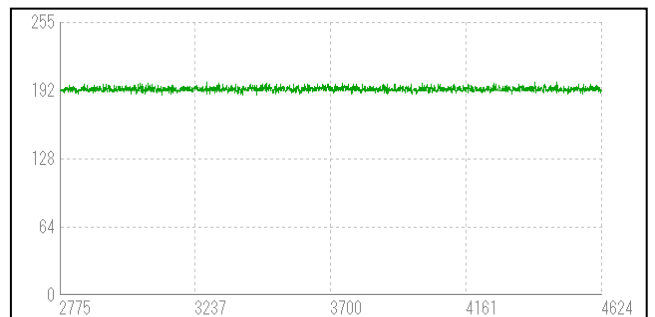
ユーザ画素補正前画像



左記画像緑線部 プロファイル



ユーザ画素補正後画像



左記画像緑線部 プロファイル

図 4-12-1 全画素ビット補正前後の波形

4.12.1 コマンド設定

PC からシリアル通信を通してコマンドを送信し、画素補正の有効、無効画素補正データの取得、画素補正データのメモリ書き込みを行います。

コマンド設定例

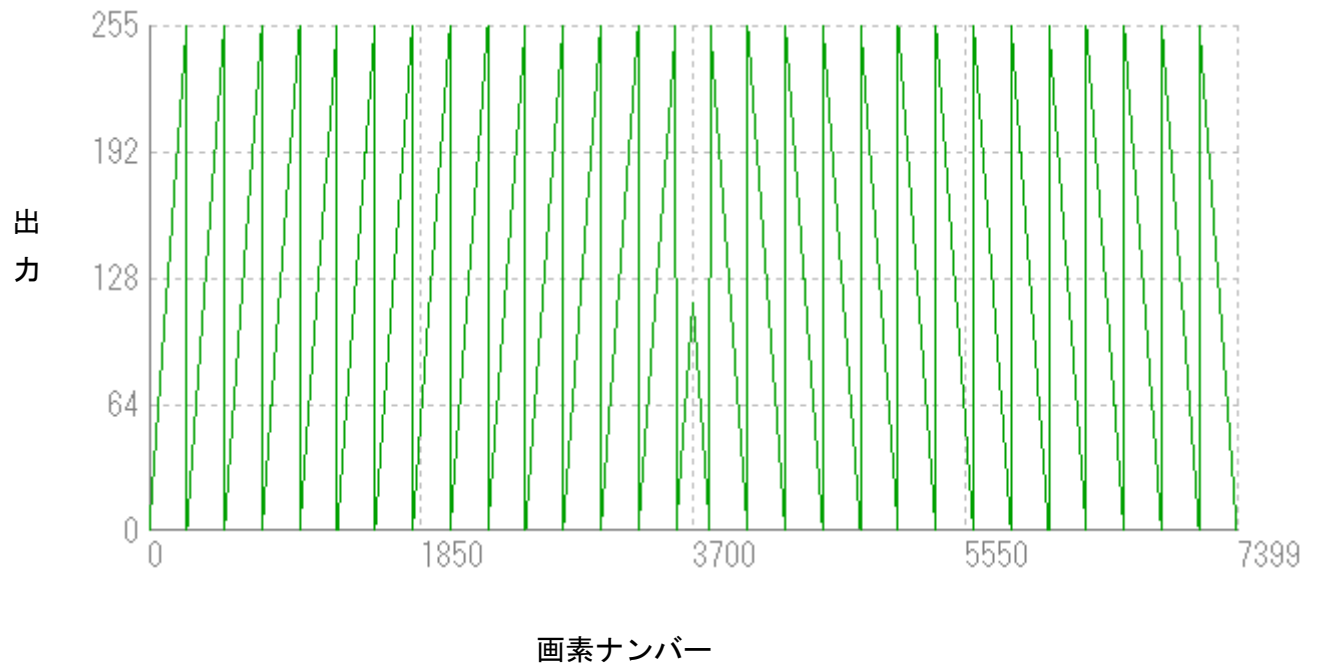
C0 : 画素補正無効
C1 : 工場画素補正「白（入光）」データ有効
C2 : ユーザ画素補正「白（入光）」データ有効
K : ユーザ画素補正「黒（遮光）」データ取得
W : ユーザ画素補正「白（入光）」データ取得
L : ユーザ画素補正データの内蔵メモリ書き込み
M[Val] : 画素補正有効時の補正ターゲットレベル設定

4.12.2 操作方法

- ① レンズキャップをつけて遮光状態にする。
- ② COM ポートを通して PC から「K [CR]」を送信する。これでユーザ画素補正「黒（遮光）」データ（256ライン加算平均）が取得される。
- ③ カメラから「>K OK [CR]」が返信されてきたことを確認する。
- ④ レンズキャップを外して補正する被写体を撮影する。
※レンズをつけた状態だとレンズと光源のシェーディングが同時に補正されます。
※また、レンズフォーカスを少しずらした状態で補正データを取得することを推奨します。
- ⑤ COM ポートを通して「W [CR]」を送信する。これでユーザ画素補正「白（入光）」データ（256ライン加算平均）が取得される。
- ⑥ カメラから「>W OK [CR]」が返信されてきたことを確認する。
- ⑦ COM ポートを通して「L [CR]」を送信する。これでユーザ画素補正データが内蔵フラッシュメモリに書き込まれます。
- ⑧ COM ポートを通して「M [Val] [CR]」を送信する。これで画素補正ターゲットレベルが設定される。
※ターゲットレベルは取得したユーザ画素補正「白（入光）」データより大きい値にしないと、飽和時出力が8bit フルスケール出力されません。
- ⑨ COM ポートを通して「C2 [CR]」を送信する。これでユーザ画素補正が有効になります。
※「C1 [CR]」を送信すると工場画素補正「白（入光）」が有効になります。

4.13 テストパターン

1画素目より3700画素は0→255DNを出力を繰り返し、3700画素は115DNとなります。3701画素目より7400画素は115→0DNを出力しその後255→0DNを繰り返し、7400画素は0DNとなります。



5 カメラ設定の確認基準

5.1 通電前

外装に凹みや傷が無いか確認します。輸送などの取扱時に落下や衝突があった場合コネクタや内部の部品に損傷が生じている可能性があります。

- ① 電源ケーブルのピンアサインを確認します。

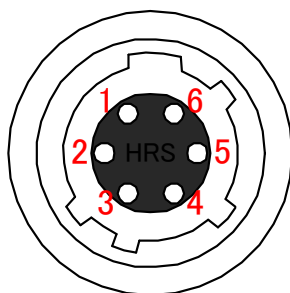


図 5-1-1 電源ケーブルのピンアサイン

- ② カメラケーブルの方向とチャンネルを確認します。

◆Camera Link 用ケーブルには接続方向の指定があるものがあります。一方のコネクタに「カメラ側」などの表示がある場合は、そのコネクタをカメラ側に接続してください。

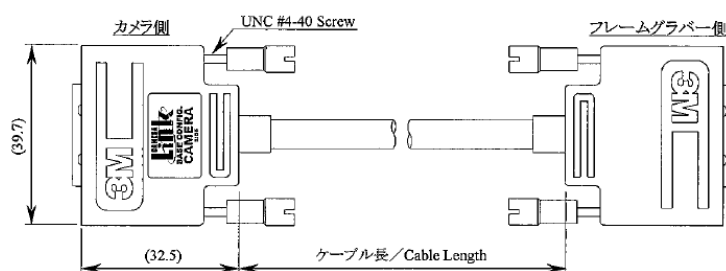


図 5-1-2 カメラケーブルの接続方向

カメラインターフェイスが、Solios の場合の接続チャンネル

CL1 = CHANNEL #0

CL2 = CHANNEL #1

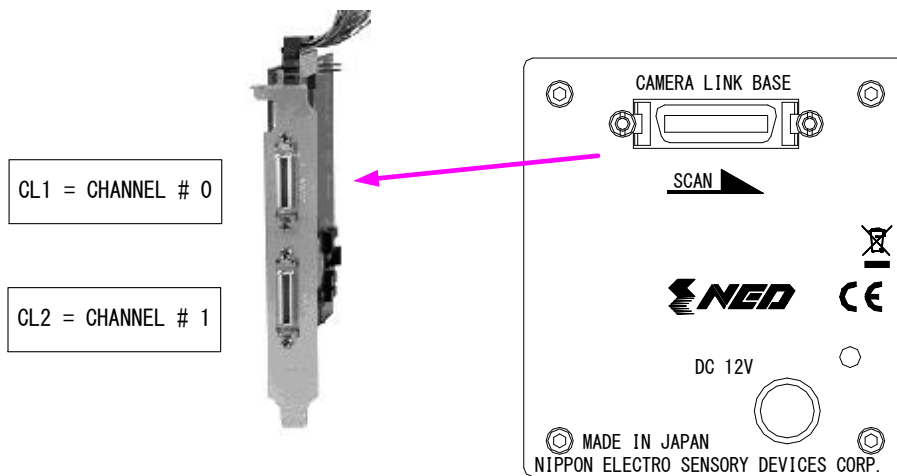


図 5-1-3 カメラケーブルのチャンネル

5.2 通電後

- ① カメラ制御ユーティリティでコマンドの送受信を確認します。NCCtrl を起動します。COM ポートを設定して接続を行います。ボタン「ロード」、「はい」をクリックして応答を待ちます。



図 5-2-1 接続の確認

- ② カメラ制御ユーティリティで、ビデオ出力形態を設定します。
ビデオ出力形態＝8bit 2tap 或いは 10bit 2tap、12bit 2tap



図 5-2-2 ビデオ出力形態設定

- ◆ 画像確認ができるアプリを既に作成済みの場合は、適切な設定を選択してください。

- ③ カメラのインターフェース・ボードユーティリティで画像を取り込みます。
カメラのインターフェースが、Matrox の Solios の場合、Intellicam を使用するが簡単です。

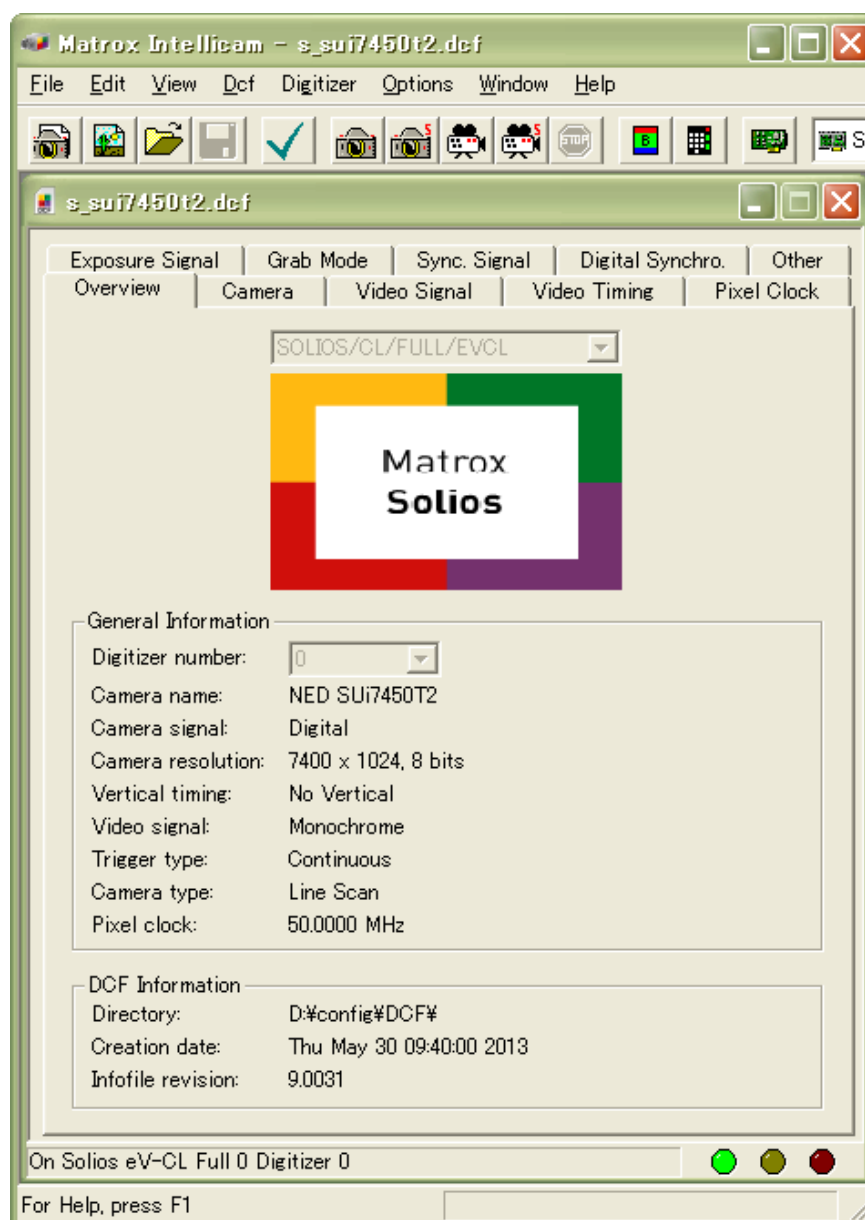


図 5-2-3 Solios Intellicam dcf 画面

5.3 動作開始時

(1) 取込タイムアウトなどのエラーが発生しないか？

<原因>

① 取込負荷が大きすぎる。

フィルタ処理などを多用した場合、ドライバへの割り当てが不足する場合があります。

② カメラの故障やケーブルが外れている。

カメラ電源が入っていなかったり、CL1 側のコネクタが外れかけている場合もあります。

③ Camera Link ケーブルと光源インバータ線や動力線が接近して敷設されている場合に、ノイズを受けることがあります。パソコンがリセットする場合がありますので注意してください。

(2) 縦スジが発生していないか？

<原因>

受光素子へのゴミの付着

ホコリなどの飛来や、内部にあったゴミの移動などで受光素子へ付着する場合があります。早期であれば、エアブローやレンズクリーナーなどで簡単に除去できます。

6 センサの取扱

6.1 静電気とセンサ

CCD センサは静電気ショックによるダメージを受けると特性が劣化することがあります。取扱いには十分注意願います。

6.2 ほこり・油・傷対策

センサ窓は光路内にあるので、他の光学系と同様に十分注意して扱う必要があります。ほこりや粉塵の多い場所でのご使用の際は、必ず粉塵防護策の処置を行ってください。

6.3 センサの清掃

ほこり：エアーで吹き飛ばす。

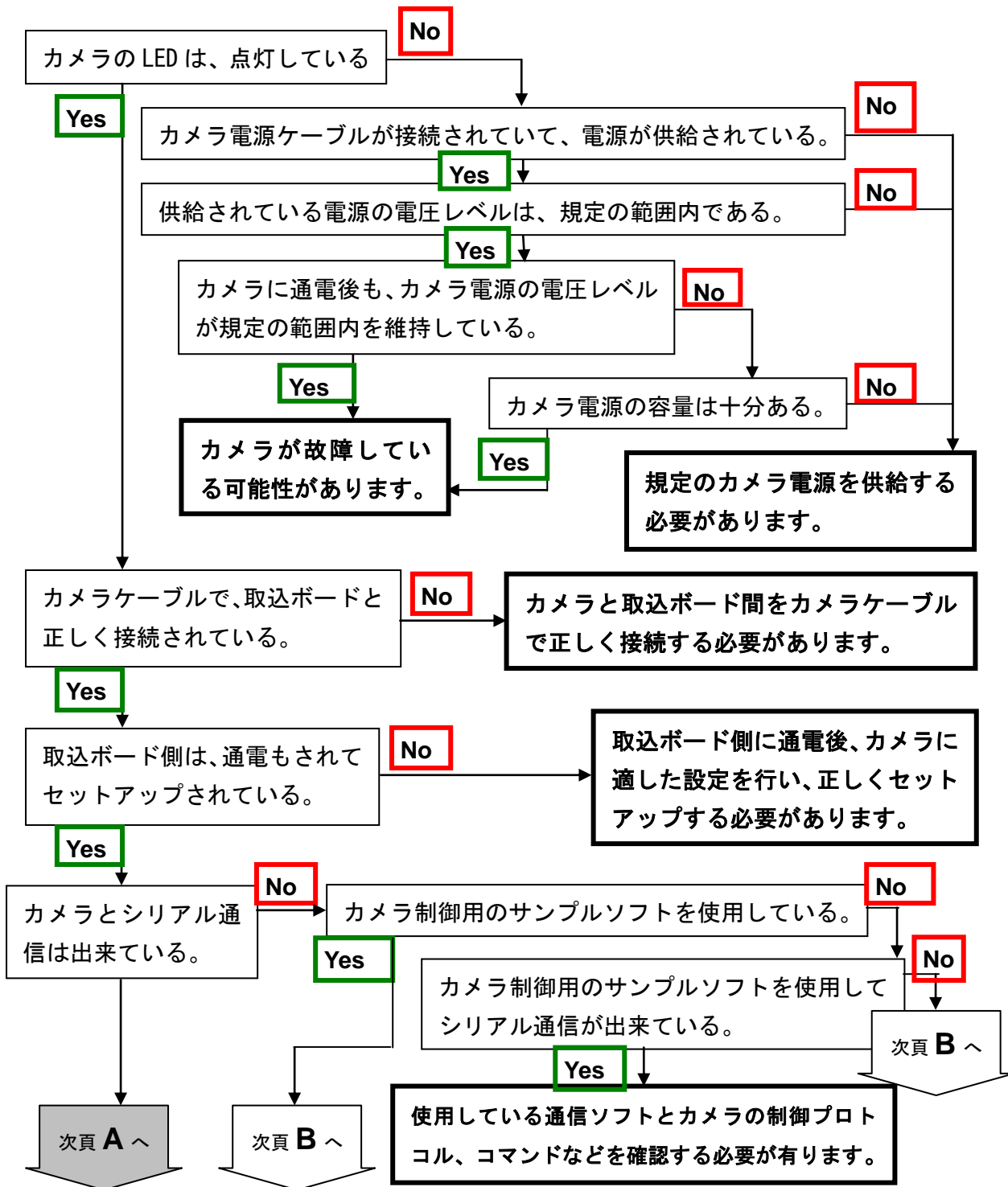
油類：エチルアルコールをつけた繊維の抜け落ちない布で傷をつけないように拭取る。

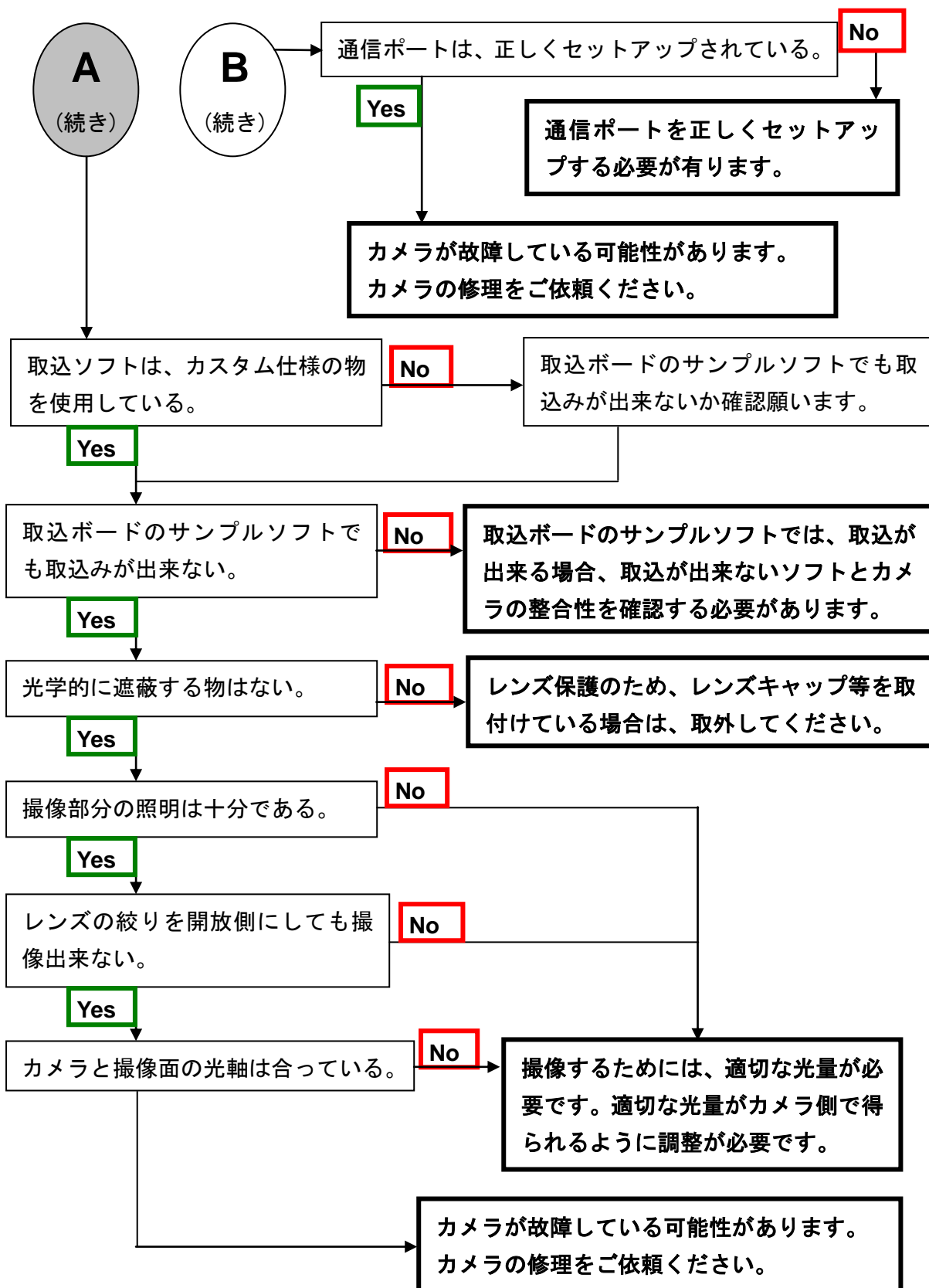
ウインドウガラスの表面にゴミや汚れが付着すると、画像に黒キズとして表示しますので、ゴミはエアブロー等で吹き飛ばし、汚れはエチルアルコールをつけた綿棒等でガラス面にキズをつけないように拭き取ってください。

7 トラブルシューティング

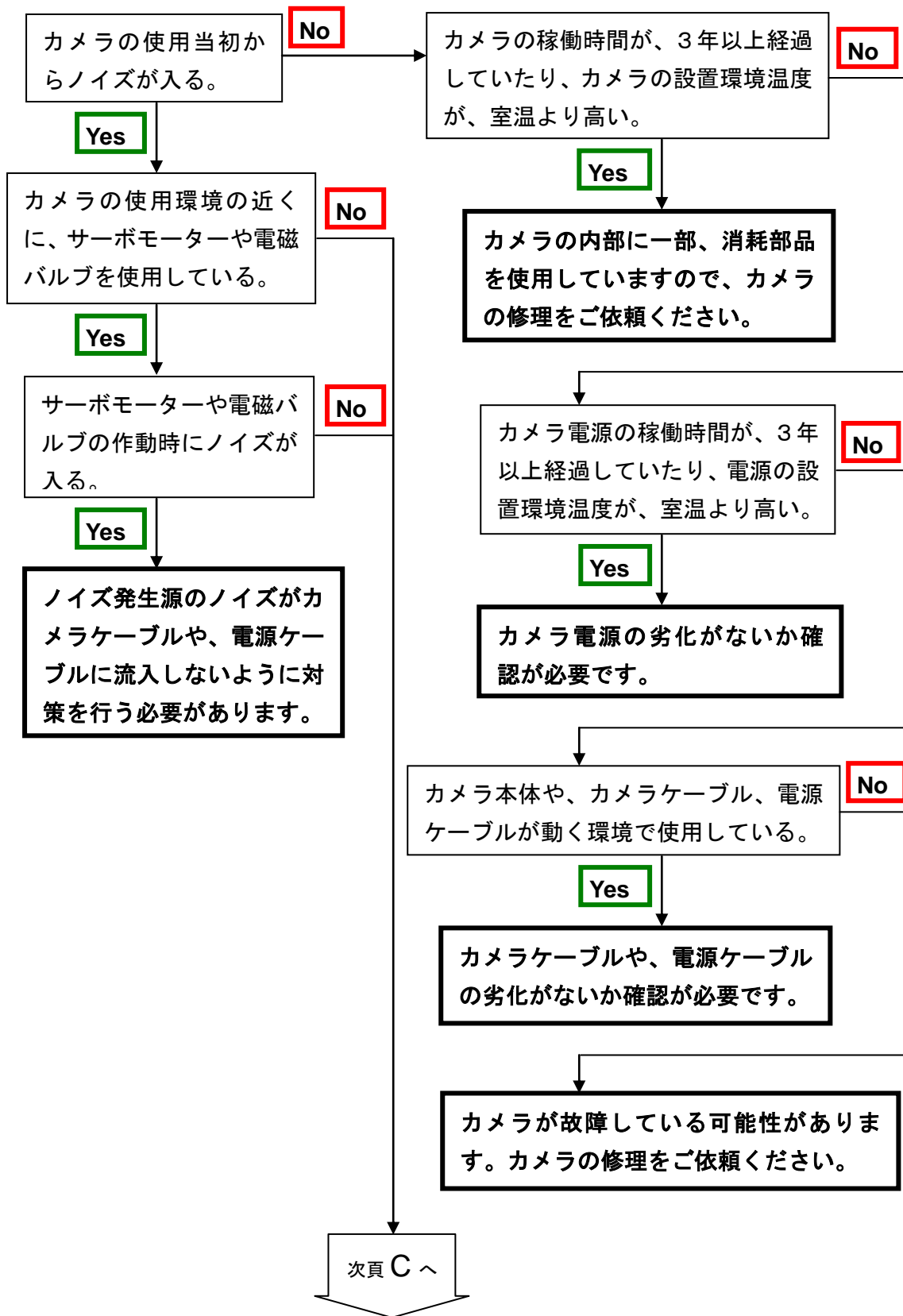
以下のページにはお使いの上で発生しがちなトラブルの原因を挙げてあります。症状に合わせてご覧ください。

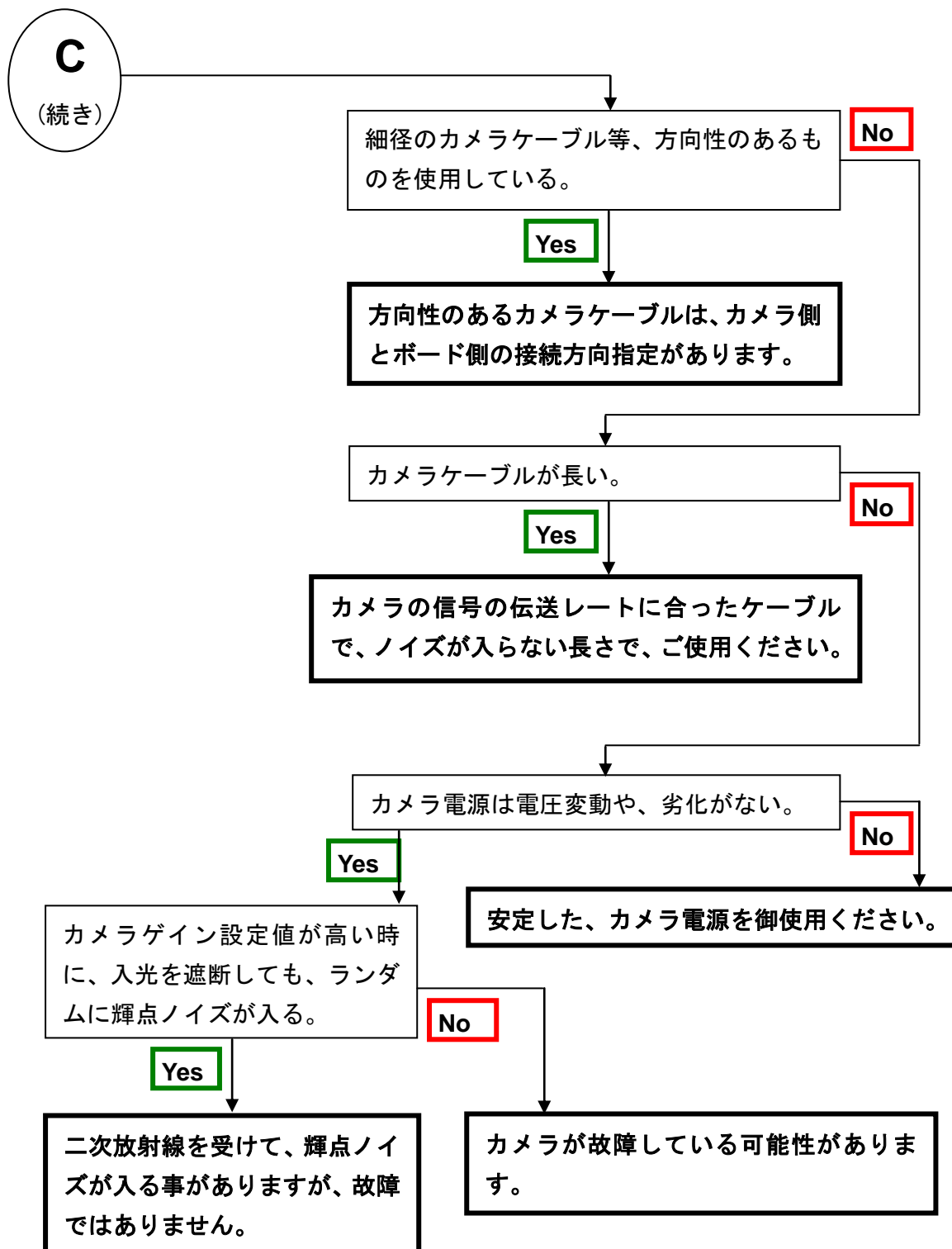
7.1 撮像できない



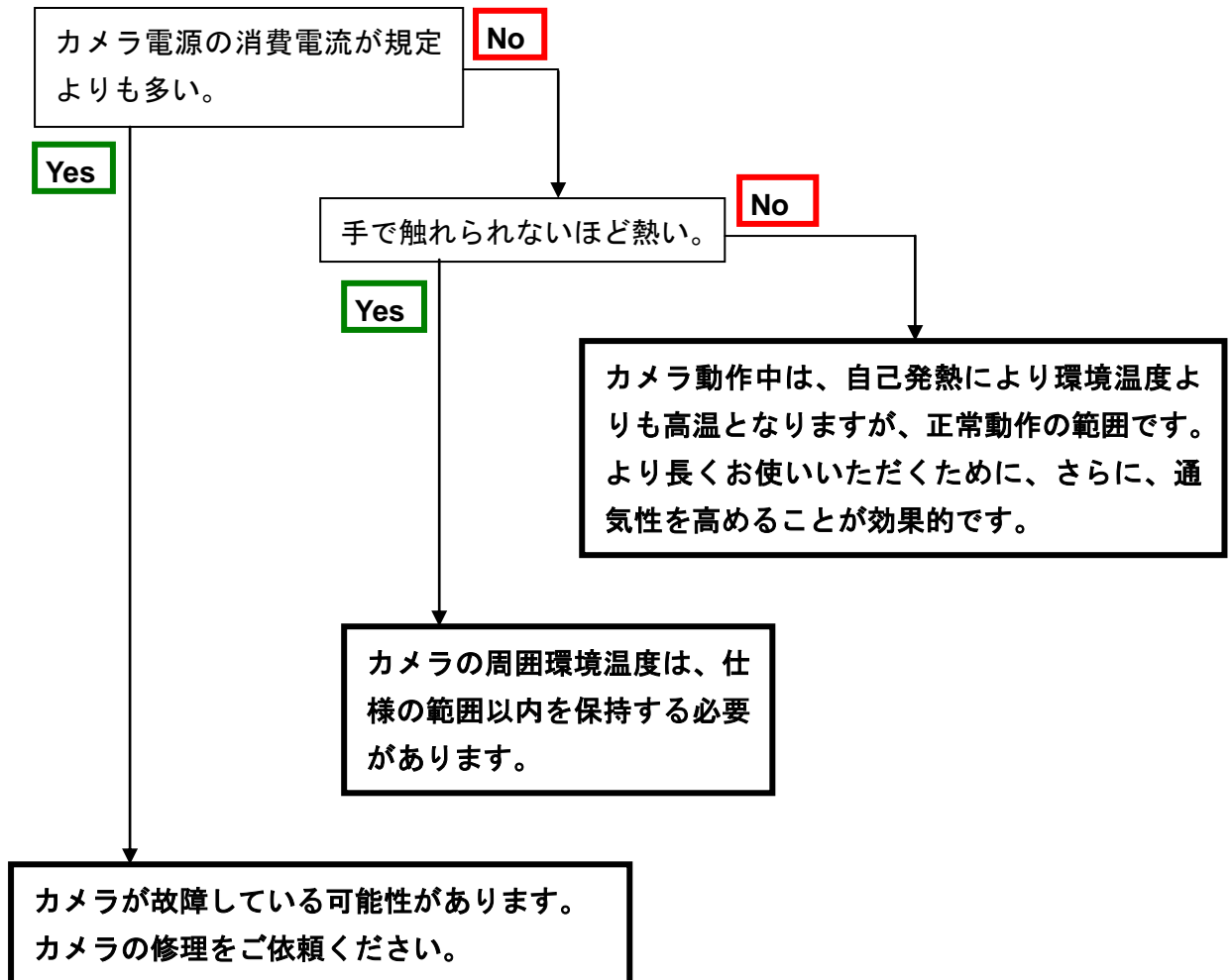


7.2 画像にノイズがはいる





7.3 カメラが熱くなる



8 NCctrl (カメラコントロール) について

8.1 概要

NCctrl は、「NED カメラ制御プロトコル」(NCCP) 対応ラインスキャンカメラをパソコンからリモート制御するソフトウェアです。

接続可能なインターフェースは以下の通りです。

- ・ COM ポート (RS232C)
- ・ Camera Link

8.2 動作環境

パソコン : PC/AT 互換機

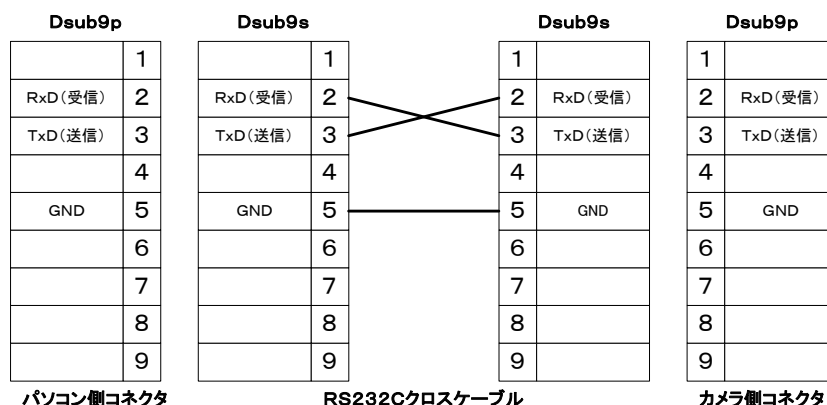
OS : Microsoft Windows シリーズ (9x/NT/2000/XP)

ディスク容量 : 1~2MB (カメラ設定ファイル数によって増減する場合があります。)

また接続するインターフェースによっては、以下の環境も必要です。

COM ポート (RS232C) 接続でお使いの場合 :

- ・ ハードウェアおよび OS 上で利用可能な COM ポートが必要です。
- ・ RS232C クロスケーブル (Dsub9s-Dsub9s) が必要です。



Camera Link 接続でお使いの場合 :

- ・ Camera Link 対応の画像入力ボードとそのデバイスドライバがインストールされており、且つ画像入力ボードのメーカーが提供する Camera Link API 用 DLL が必要です。

(詳細は、画像入力ボードの各メーカーにお問い合わせ下さい。)

- ・ Camera Link 対応ケーブルが必要です。

8.3 インストール

弊社提供メディア（FD、CD-ROM 等）内の NCctrl フォルダをハードディスクの任意の位置にコピーして下さい。

また CD-ROM からコピーの場合は、NCctrl フォルダの「読み取り専用」属性は解除して下さい。


8.4 アンインストール


インストールされた NCctrl フォルダ以下を全て削除して下さい。

8.5 操作

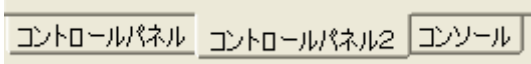
8.5.1 凡例

これより以降は下図の表現・名称を用います。

エディットボックス →  ← スピンボタン

ドロップダウンリストボックス → 

チェックボックス → 有効

タブ → 

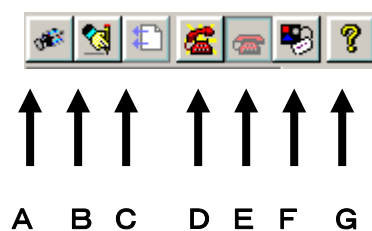
8.5.2 起動

エクスプローラから NCCtrl.exe をダブルクリックします。



ウインドウ下部の **コントロールパネル**、**コントロールパネル2**、**Console** タブをクリックする事でページを切り替える事が可能です。

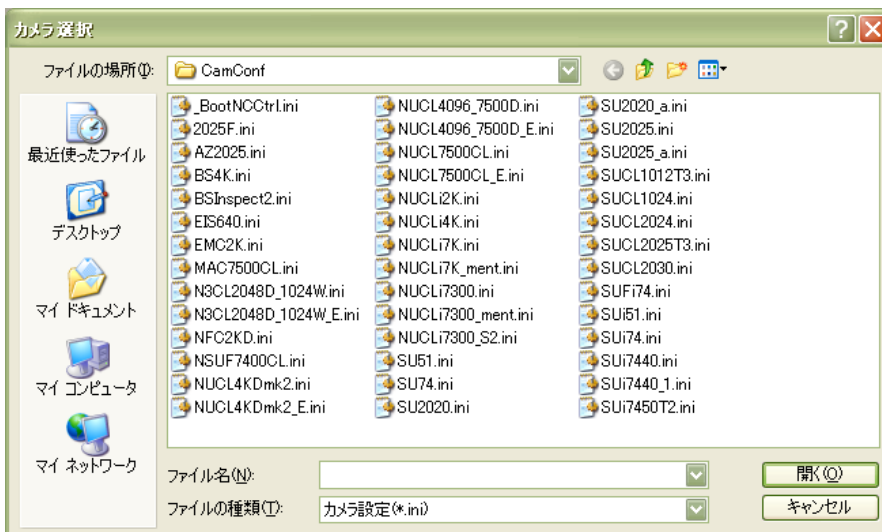
また、ツールバーのボタンの内容は以下の通りです。



- A : カメラ設定ファイルを開きます。
- B : 現在の設定をテキスト形式で保存します。
- C : テキストから一括設定します。
- D : カメラに接続します。
- E : 切断します。
- F : 通信の設定をします。
- G : バージョン情報です。

8.5.3 カメラ設定ファイルの読み込み

① ツールバーのボタンA をクリックします。



② 設定ファイルを選択して開くボタンをクリックします。

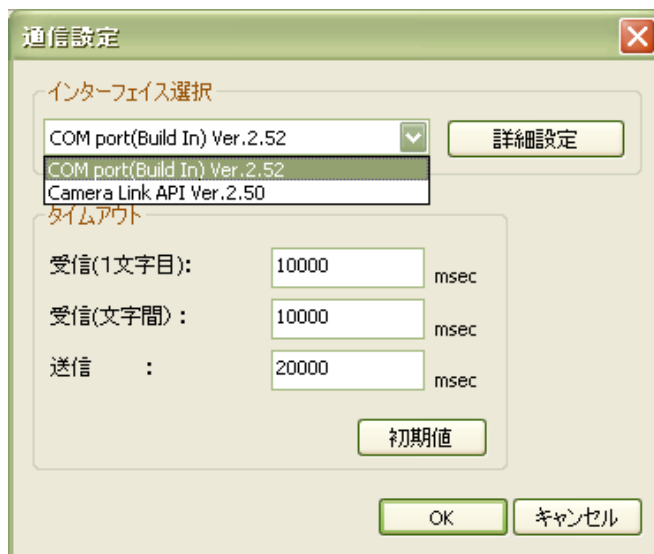
③ 設定が読み込まれ、ウィンドウ内の各コントロールが初期化されます。

接続するカメラがサポートしていない機能は灰色表示となり操作できません。
 次回の起動時から、最後に使用したカメラ設定ファイルが自動で開きます。

8.5.4 インターフェースの選択・タイムアウト設定

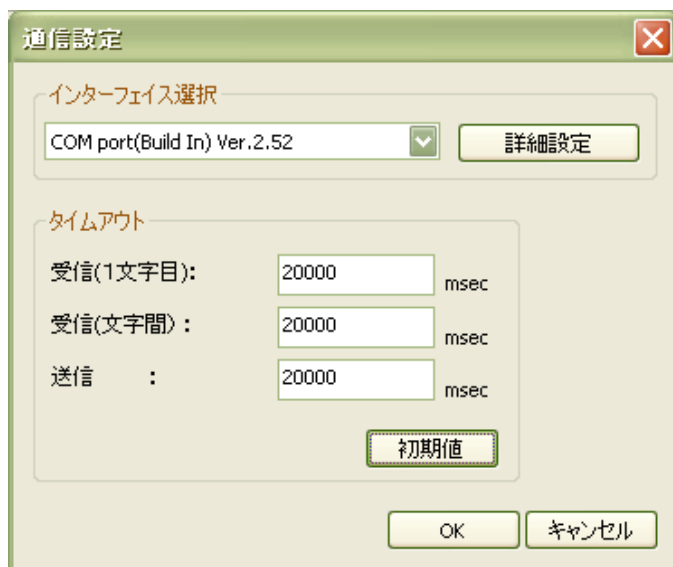
8.5.4.1 インターフェースの選択

① ツールバーのボタンF をクリックします。



② ドロップダウンリストボックスから接続するインターフェースを選択します。

- ③ **詳細設定** ボタンをクリックするとインターフェースごとの設定が行えます。
(後述)



- ④ **OK** ボタンをクリックすると選択完了です。
キャンセルボタンをクリックした場合は、選択されません。

※選択状態は保存されますので次回の起動時以降は、この操作は不要です。

8.5.4.2 COM ポートの設定

- ①各項目を以下の様に設定して下さい。(NED 標準)
但し、接続するカメラに異なる設定が示されている場合は、そちらに合わせて下さい。

- ・ 通信ポート : 接続している COM ポートを選択
- ・ 通信速度 : 9600
- ・ データ長 : 8
- ・ パリティ : なし
- ・ ストップビット : 1
- ・ フロー制御 : なし

※その他の設定は未使用です。

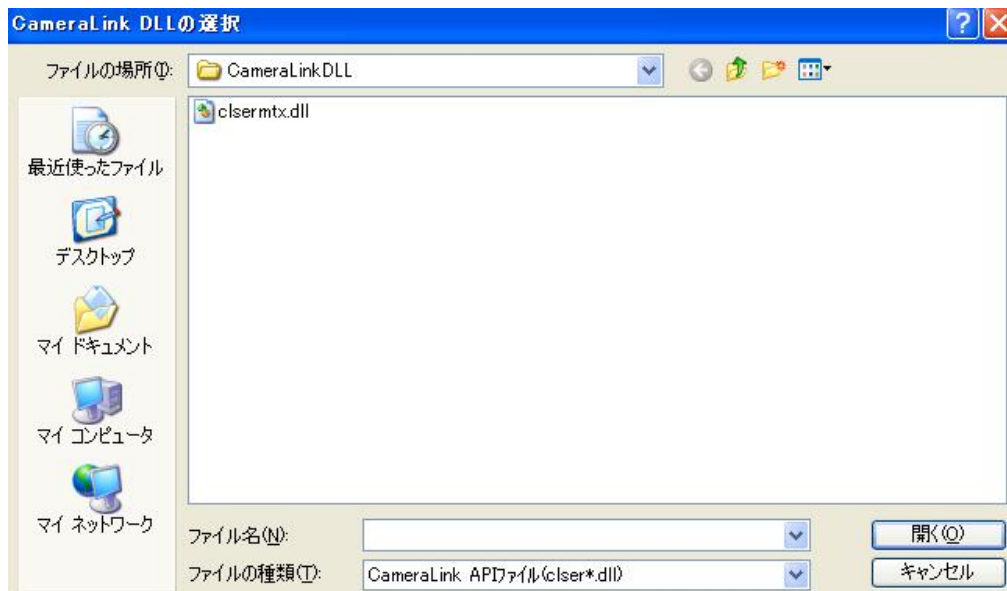
- ②OK ボタンをクリックすると設定が保存されます。
キャンセルボタンをクリックした場合は、設定が保存されません。

※設定内容は保存されますので次回の起動時以降は、この操作は不要です。

8.5.4.3 Camera Link の設定



- ①Camera Link API 用 DLL のファイル名をフルパスで直接エディットボックスに入力するか、**参照**ボタンをクリックしてファイルを指定します。



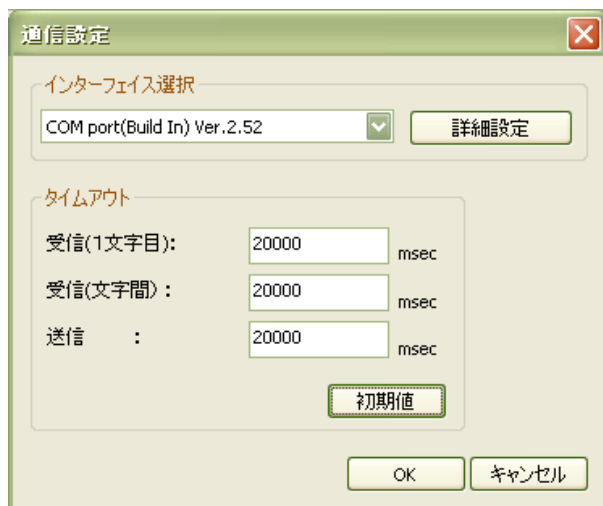
- ②Camera Link 対応ケーブルの接続する位置に合わせて Serial Index に値を入力します。
- ③OK ボタンをクリックすると設定が保存されます。
キャンセルボタンをクリックした場合は、設定が保存されません。

※設定内容は保存されますので次回の起動時以降は、この操作は不要です。

※Camera Link API 用 DLL は、画像入力ボードの各メーカーから提供されます。
(入力ボードからパソコンの COM ポートへスルーしている場合は、この限りではありません。この場合はインターフェースを COM ポートにしてお使い下さい。)

Serial Index の値も含めて、詳細は各ボードメーカーにお問い合わせ下さい。

8.5.4.4 タイムアウトの設定



①各エディットボックスにタイムアウト時間を msec 単位で入力します。

初期値 ボタンをクリックすると、エディットボックスの値が初期値に変更されます。

各タイムアウトの意味は以下の通りです。

受信（1文字目）：コマンド送信後、最初の受信データが到着するまでの時間

受信（文字間）：受信データ中の文字間の到着時間

送信：コマンド送信が完了するまでの時間

②OK ボタンをクリックすると設定が保存されます。

キャンセルボタンをクリックした場合は、設定が保存されません。

※設定内容は保存されますので次回の起動時以降は、この操作は不要です。

8.5.5 接続

ツールバーのボタン D をクリックしてカメラに接続するとリモート制御が可能になります。



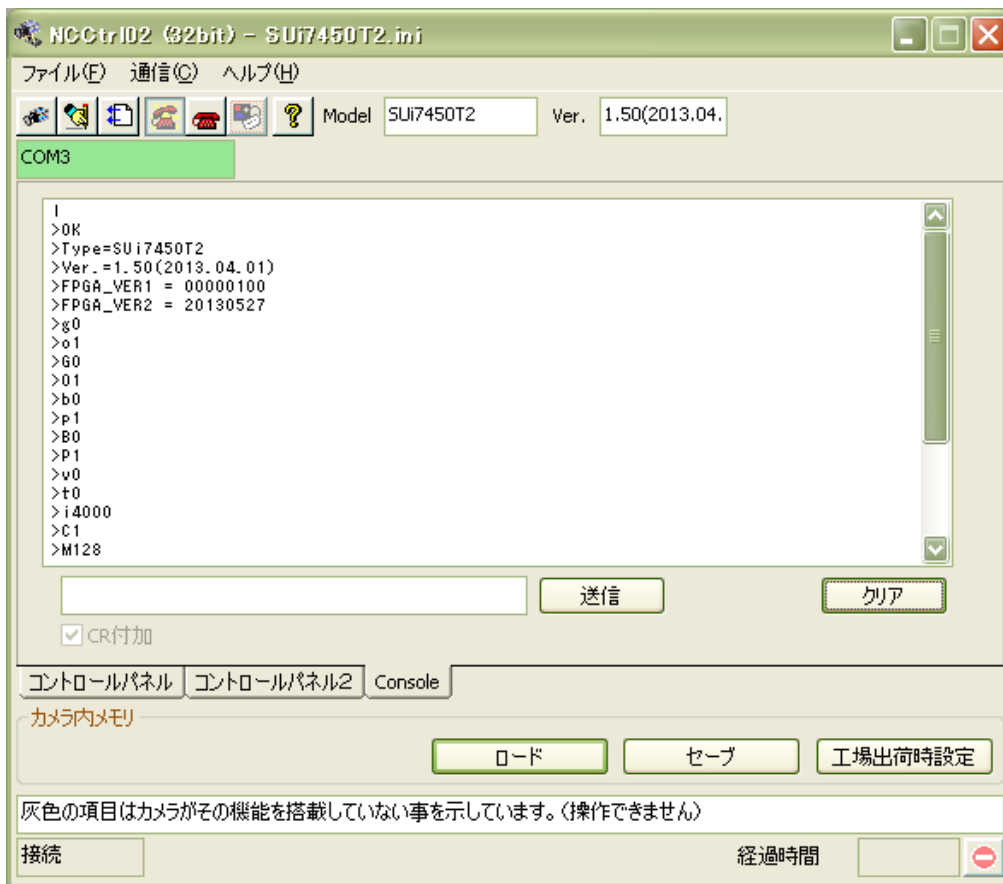
8.5.6 切断および終了

ツールバーのボタン E をクリックして通信を切断しウインドウ右上の **×** ボタンをクリックして終了します。



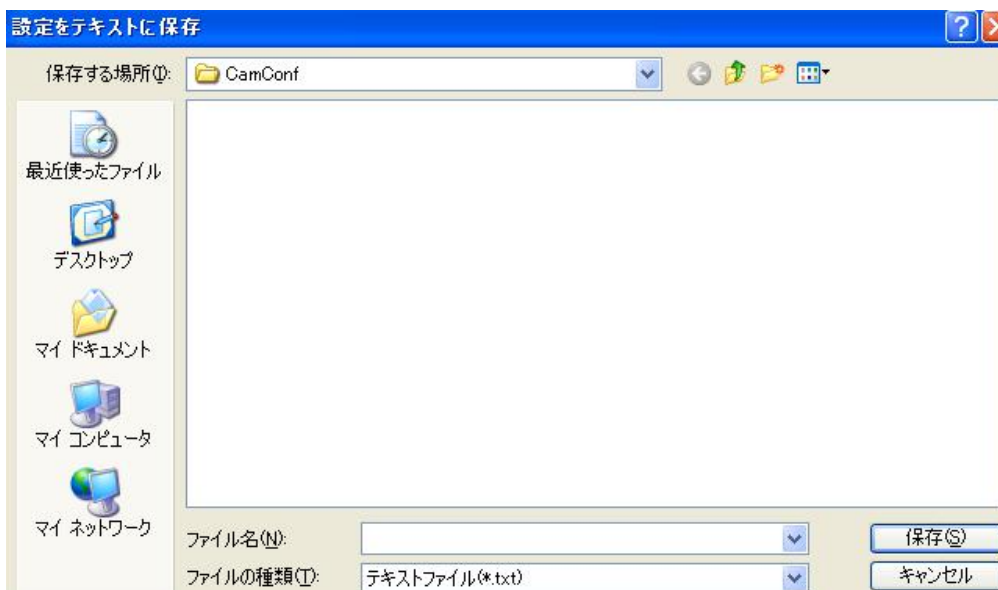
8.5.7 通信内容の確認

ウィンドウ下部の「コンソール」タブをクリックすると、通信内容が確認できます。



8.5.8 設定のテキスト保存

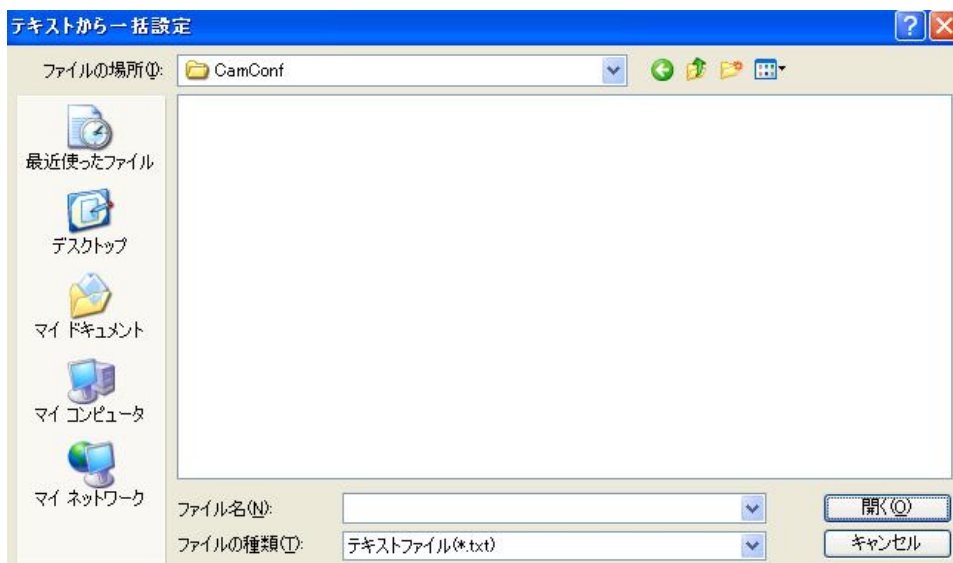
① ツールバーのボタン B をクリックします。



② ファイル名を指定して**保存**ボタンをクリックすると、現在の設定値（ウィンドウのコントロールの現在値）がテキストファイルで保存されます。

8.5.9 テキストから一括設定

- ① カメラと接続の状態、メニューから「ファイル」－「テキストから一括設定」を選択します。



- ② ファイル名を指定して「開く」ボタンをクリックするとテキストファイルに保存されている各コマンドが順次発行されます。

8.6 制御

ウインドウ下部の「コントロールパネル」または「コントロールパネル 2」タブをクリックしてページを切り替えます。NC0trl 起動時は「コントロールパネル」が表示されています。





※制御できる機能やその値の範囲はカメラごとに異なります。詳細は4 カメラの制御の項をご覧ください。

8.6.1 オフセット



数値を直接入力するかスピンボタンで設定して送信ボタンをクリックするとカメラに送信します。

8.6.2 ビデオ出力形態



ドロップダウンリストボックスから選択する毎にカメラに送信します。

8.6.3 カメラ内メモリ

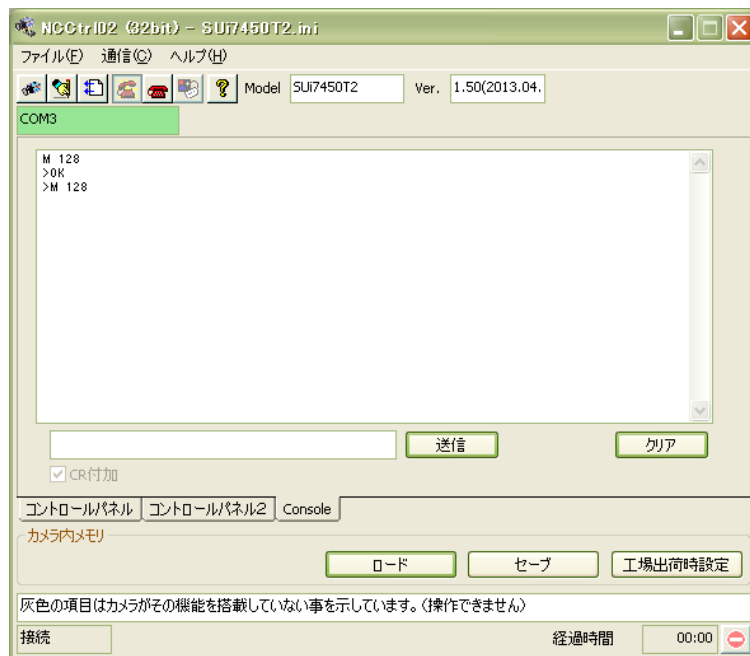
ロードボタンをクリックすると、カメラに保存されているデータを読み込みます。

セーブボタンをクリックすると、現在のデータをカメラに保存します。

工場出荷時設定ボタンをクリックすると、カメラに保存されている出荷時データで初期化します。

8.6.4 画素補正

- ① コンソール画面の入力欄に画素補正ターゲットレベル「M xxx」を入力し、送信ボタンをクリックして設定します。
- ② 「W」を入力し送信ボタンをクリックして画素補正を実行します。
- ③ 画素補正が完了し、この補正データをカメラ内部メモリに保存する場合は「L」を入力し、送信ボタンをクリックします。



8.7 アップグレード

弊社より最新のソフトウェアをご提供させていただいた場合は、以下の手順で実行して下さい。

8.7.1 NCCtrl をバージョンアップする場合

- ① NCCtrl が起動していない事を確認します。
- ② 旧バージョンを 8.4 項のアンインストールに従ってアンインストールします。
- ③ 新バージョンを 8.3 項のインストールに従ってインストールします。

8.7.2 カメラ設定ファイルを追加または置き換える場合

- ① NCCtrl が起動していない事を確認します。
- ② インストールされた NCCtrl¥CamConf フォルダ内にカメラ設定ファイルをコピーします。

8.7.3 接続するインターフェースを追加または置き換える場合

- ① NCCtrl が起動していない事を確認します。
- ② NCCtrl と同じフォルダ内にインターフェースのファイルをコピーします。

8.8 通信プログラムについて

お客様にてカメラとの通信をプログラミングされる場合は NCCtrl¥SampleProgram フォルダ内のサンプルプログラムをご参照ください。

8.9 その他

- ◆ 本ソフトウェアの内容の一部又は全部を、無断転載することは固くお断りします。
- ◆ 本ソフトウェアの一部または全部をリバースエンジニアリングする事や、改変することは固くお断りします。
- ◆ 本ソフトウェアの内容については将来予告なしに変更することがあります。

9 その他

9.1 お願い

- 本書の内容の一部又は全部を無断転載することは固くお断りします。
- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を記して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡くださいますようお願いいたします。

9.2 お問い合わせ先

- 本社
〒550-0012 大阪市西区立売堀 2 丁目 5 番 12 号
日本エレクトロセンサリデバイス株式会社
TEL (06) - 6534 - 5300 FAX (06) - 6534 - 6080
- 東京支社
〒140-0014 東京都品川区大井 1 丁目 45 番 2 号
ジブラルタ生命大井ビル 402
TEL (03) - 5718 - 3181 FAX (03) - 5718 - 0331
- 西日本支社
〒812-0004 福岡市博多区榎田 1 丁目 8 番 28 号
ツインスクエア
TEL (092)-451-9333 FAX (092)-451-9335
- URL
<http://ned-sensor.co.jp/>
- メールアドレス
<mailto:sales@ned-sensor.com>

9.3 保証とアフターサービス

9.3.1 保証書（別添付）

保証書はよくお読みのうえ、大切に保存してください。

9.3.2 修理を依頼される時

トラブルシューティングに従ってご確認の後、直らないときは、まず、電源を切って、上記連絡先にご連絡ください。

その際、不具合が出たカメラの動作状態をメールなどで連絡してください。カメラの動作状態は、カメラと PC の通信で入手できます。（参照 4.2.5 動作状態読出し）カメラ動作状態で「I」を送信することで得られます。その部分をコピーしてください。

カメラ動作状態の表示例

・コマンド「I」を送信すると、現状のカメラ設定が返ってきます。

```
I
>OK
>Type=SUi7450T2
>Ver.=1.50(2013.04.01)
>FPGA_VER1 = 00000100
>FPGA_VER2 = 20130527
>g0
>o1
>G0
>O1
>b0
>p1
>B0
>P1
>v0
>t0
>i4000
>C1
>M128
>c0
>s0
>S255
>T0
>R0
>I
```

改訂履歴

改訂番号	日付	変更内容
01	2013年7月30日	初版発行
02	2015年11月10日	4.8.3、4.8.4追加